

家屋税

○家屋税法 (未公布)

第一章 總則

- 第一條 本法施行地ニ在ル家屋ニハ本法ニ依リ家屋税ヲ課ス
- 第二條 本法ニ於テ家屋トハ住家、店舗、工場、倉庫其ノ他ノ建物ヲ謂フ
- 第三條 左ニ掲グル家屋ニハ家屋税ヲ課セス但シ有料借家ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 國、北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋
 - 二 神社、寺院又ハ教會ノ用ニ供スル家屋
 - 三 國寶保存法又ハ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ國寶又ハ史蹟若ハ名勝トシテ指定セラレタル家屋

- 四 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學並ニ大藏大臣ノ指定スル其ノ他ノ私立學校ニ於テ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル家屋
- 五 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋
- 第四條 家屋ニハ一個毎ニ家屋番號ヲ附シ其ノ床面積及賃貸價格ヲ定ム但シ家屋稅ヲ課セザル家屋ニ付テハ賃貸價格ヲ附セズ
- 前項ノ場合ニ於テ附屬家屋アルトキハ之ヲ合シタルモノヲ以テ一個ノ家屋ト看做ス
- 第三條 家屋中家屋稅ヲ課スル部分ト家屋稅ヲ課セザル部分トアルトキ又ハ所有者ヲ異ニスル部分アルトキハ各別ニ之ヲ一個ノ家屋ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス
- 床面積ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 稅務署ニ家屋臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス
 - 一 家屋ノ所在
 - 二 家屋番號
 - 三 種類、構造及床面積
 - 四 賃貸價格
 - 五 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

本法ニ定ムルモノノ外家屋臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 家屋稅ノ課稅標準ハ家屋臺帳ニ登錄シタル賃貸價格トス

賃貸價格ハ貸主ガ公課、修繕費其ノ他家屋ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スベキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム

第七條 家屋稅ノ稅率ハ百分ノ一・七五トス

第八條 家屋稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年六月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第九條 家屋稅ハ納期開始ノ時ニ於テ家屋臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵ス

第二章 賃貸價格ノ調査決定

第十條 賃貸價格ハ第十一條、第十四條第一項及第二十二條第一項ニ規定スル場合ヲ除クノ外家屋賃貸價格調査委員會ノ議ニ付シ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十一條 第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定ムル場合ニ於テハ其ノ賃貸價格ハ類似ノ家屋ノ家屋臺帳ニ登錄シタル賃貸價格ニ比準シ其ノ家屋ノ情況ニ應ジテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ床面積及賃貸價格ハ家屋所有者ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不

相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十二條 貸賃價格ハ五年毎ニ一般ニ之ヲ改定ス

第十三條 貸賃價格ヲ一般ニ定ムル場合ニ於テハ貸賃價格ハ之ヲ定ムル年ノ前前年四月一日現在ノ家屋稅ヲ課スベキ家屋ニ付之ヲ調査ス

第十四條 貸賃價格ヲ一般ニ定ムル年ノ前前年四月二日以後貸賃價格ヲ一般ニ定ムル迄ノ間ニ於テ異動シタル家屋ニ付テハ一般ニ定ムル貸賃價格ハ第十一條第一項又ハ第二十二條第一項ノ例ニ準ジ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ定ム

第四十九條 乃至第五十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十五條 本法ニ定ムルモノノ外貸賃價格ノ調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 家屋ノ異動

第十六條 家屋ヲ建築シタルトキ、家屋稅ヲ課セザル家屋ガ家屋稅ヲ課スル家屋ト爲リタルトキ又ハ家屋稅ヲ課セザル家屋ノ一部ガ家屋稅ヲ課スルモノト爲リタルトキハ家屋所有者ハ三十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第十七條 家屋ヲ建築シタルトキ、家屋稅ヲ課セザル家屋ガ家屋稅ヲ課スル家屋ト爲リタルトキ又ハ家屋稅ヲ課セザル家屋ノ一部ガ家屋稅ヲ課スルモノト爲リタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

定ム

第十八條 家屋ヲ増築シタルトキハ家屋所有者ハ三十日以内ニ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第十九條 家屋ヲ増築シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

前項ノ規定ハ家屋ガ毀損シ家屋所有者其ノ旨ヲ申告シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十條 第十七條又ハ前條第一項ノ規定ニ依リ貸賃價格ヲ定メタル家屋ニ付テハ之ヲ定メタル日ガ六月三十日以前ナルトキハ其ノ年ノ第二期分ヨリ、七月一日以後ナルトキハ其ノ年ノ翌年分ヨリ新ニ定メタル貸賃價格ニ依リ家屋稅ヲ徵收ス

前條第二項ノ規定ニ依リ貸賃價格ヲ定メタル家屋ニ付テハ之ヲ定メタル後ニ開始スル納期ヨリ新ニ定メタル貸賃價格ニ依リ家屋稅ヲ徵收ス

第二十一條 家屋ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ヲ生ジタルトキハ家屋所有者ハ其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

- 一 一個ノ家屋ガ數個ノ家屋ト爲リタルトキ
- 二 數個ノ家屋ガ一個ノ家屋ト爲リタルトキ
- 三 家屋稅ヲ課スル家屋ノ一部ガ家屋稅ヲ課セザルモノト爲リタルトキ
- 四 家屋ノ一部ガ所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキ

第二十二條 家屋が前條各號ノ一ニ該當スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ従前ノ賃貸價格ヲ配分
 又ハ合算シテ家屋稅ヲ課スベキ家屋ノ賃貸價格ヲ定ム
 前項ノ家屋ニ付テハ其ノ賃貸價格ヲ定メタル後ニ開始スル納期ヨリ其ノ賃貸價格ニ依リ家屋稅
 ヲ徵收ス

第二十三條 家屋稅ヲ課スル家屋ガ家屋稅ヲ課セザル家屋ト爲リタルトキ又ハ家屋ガ滅失シタル
 トキハ其ノ旨ノ申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ家屋稅ヲ徵收セズ家屋稅ヲ課スル家屋ノ一
 部ガ家屋稅ヲ課セザルモノト爲リタル場合ニ於テ其ノ部分ニ付亦同ジ

第四章 家屋賃貸價格調査委員會

第二十四條 賃貸價格ヲ一般ニ定ムル毎ニ各稅務署所轄内ニ家屋賃貸價格調査委員會ヲ置ク但シ
 稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ賃貸價格調査委員會ヲ置クコトヲ得
 賃貸價格調査委員會ハ之ヲ置クベキ區域内ノ各市町村ニ於テ家屋稅ヲ課スベキ家屋ノ所有者ノ
 選舉ニ依ル調査委員ヲ以テ之ヲ組織ス
 調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 調査委員ノ選舉區域ハ賃貸價格調査委員會ヲ置クベキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ
 市町村ノ區域ニ依ル

第二十六條 選舉區域内ニ於テ家屋稅ヲ課スベキ家屋ヲ所有スル個人ニシテ選舉人名簿ニ登録セ
 準ラレタル者ハ調査委員ヲ選舉シ又ハ調査委員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當
 スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 無能力者
- 二 破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ
- 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經ザル者
- 四 六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
- 五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ
 至ル迄ノ者

第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リタル
 後又ハ時効ニ因ル場合ヲ除クノ外執行ノ免除ヲ受ケタル後五年ヲ經ザル者

第六十條、第六十三條又ハ第六十四條乃至第六十六條ノ規定ニ依リ罰金又ハ科料ノ刑ニ處
 セラレ其ノ裁判確定ノ後五年ヲ經ザル者

法人ニシテ家屋稅ヲ課スベキ家屋ヲ所有スル者ハ前項ノ規定ニ準ジ調査委員ヲ選舉スルコトヲ
 得此ノ場合ニ於テハ選舉ニ關スル代表者ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者タルコトヲ得ズ
選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 投票及開票ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ擔任シ其ノ他ノ選舉ニ關スル事務ハ稅務署
長之ヲ擔任ス

第二十八條 稅務署長ハ調査委員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市町村長ニ通知スベシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スベシ

第二十九條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ被選舉人一人ノ氏名ヲ投票用紙ニ記載シテ
投票スベシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十條 市町村長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第三十一條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スベシ

第三十二條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムベシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同ジキトキハ年齢多キ者ヲ取り年
齡同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 調査委員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及
市町村長ニ通知スベシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スベシ

第三十五條 調査委員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ズ

第三十六條 調査委員ハ賃賃價格調査委員會ノ會議ノ終了ニ因リ退任ス

第三十七條 調査委員第二十六條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内
ニ於テ家屋稅ヲ課スベキ家屋ヲ所有セザルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第三十八條 調査委員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ當選人ト爲ラザリシ者ノ申投票ノ最多數ヲ得タル
者ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同ジキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之
ヲ定ム

第三十九條 調査委員ノ選舉ニ於テ當選人ノ數ガ定數ニ達セザルトキ又ハ調査委員ニ缺員ヲ生ジ
前條ノ規定ニ依リ補充スベキ者ナキトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ賃賃價格調査委員會開會後缺員

第三十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十九條 調査委員ノ選舉ニ於テ當選人ノ數ガ定數ニ達セザルトキ又ハ調査委員ニ缺員ヲ生ジ
前條ノ規定ニ依リ補充スベキ者ナキトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ賃賃價格調査委員會開會後缺員

ヲ生ジタル場合ニ於テハ之ヲ行ハザルコトヲ得

第四十條 貨貨價格調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク其ノ開會日數ハ三十日以内トス
第四十一條 稅務署長ハ第十三條ノ規定ニ依リ調査シタル貨貨價格ノ調査書ヲ貨貨價格調査委員會ニ提出スベシ

第四十二條 貨貨價格調査委員會ハ開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スベシ

第四十三條 貨貨價格調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非ザレバ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十四條 調査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ガ所有スル家屋ノ貨貨價格ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ズ

第四十五條 貨貨價格ヲ一般ニ定ムル年ノ前年十月三十一日迄ニ貨貨價格調査委員會成立セザルトキハ稅務署長ニ於テ其ノ貨貨價格ヲ定ム

貨貨價格調査委員會開會ノ日ヨリ第四十條ノ期間内又ハ前項ノ期日迄ニ決議終了セザルトキハ稅務署長ニ於テ其ノ貨貨價格ヲ定ム

第四十六條 稅務署長ハ貨貨價格調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ十日以内ノ期間ヲ定メ

再議ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再議期間内ニ決議終了セザルトキハ稅務署長ニ於テ其ノ貨貨價格ヲ定ム

第四十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ貨貨價格調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十八條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第四十九條 第十條、第四十五條又ハ第四十六條ノ規定ニ依リ貨貨價格ヲ定メタルトキハ稅務署長ハ之ヲ市町村長ニ通知スベシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日間關係者ノ縦覽ニ供スベシ縦覽期間ハ豫メ之ヲ公示スベシ

第五十條 自己ノ所有スル家屋ノ貨貨價格ニ付異議アル者ハ前條ノ縦覽期間滿了ノ日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ申立アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第五十一條 前條第一項ノ申立アリタルトキハ稅務監督局長ハ之ヲ審査決定シ異議申立人ニ通知スベシ

第五十二條 前條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五章 家屋稅ノ徵收

家屋稅 家屋稅法 家屋稅ノ徵收

第五十三條 稅務署長ハ家屋ノ異動其ノ他家屋稅徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スベシ

第五十四條 家屋稅ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル家屋ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃貸價格ノ合計金額ガ命令ヲ以テ定ムル金額ニ滿タザルトキハ家屋稅ヲ徵收セズ

第五十五條 市町村ハ家屋稅ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃貸價格及家屋稅ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スベシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スベシ

第六章 雜則

第五十六條 稅務署長家屋ノ異動ニ因リ家屋番號、種類、構造、床面積又ハ賃貸價格ヲ家屋臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ家屋所在ノ市町村ヲ經由シ家屋所有者ニ通知スベシ

第五十七條 納稅義務者其ノ家屋所在ノ市町村内ニ現住セザルトキハ家屋稅ニ關スル事項ヲ處理

セシムル爲其ノ地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スベシ

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ家屋ノ所有者、占有者其ノ他利害關係人ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ日出ヨリ日没迄ノ間家屋ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第六十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ家屋稅ヲ遁脫シタル者ハ其ノ遁脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ家屋稅ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十一條 本法ニ依リ申告ヲ爲スベキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サズ仍テ家屋稅ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第六十二條 前二條ノ規定ニ依リ家屋稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ第五十四條ノ規定ニ拘ラズ當該家屋一個毎ニ其ノ家屋稅ヲ算出ス

第六十三條 正當ノ事由ナクシテ第五十八條ノ規定ニ依ル家屋ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタ

ル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 貸賃價格ノ調査若ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ貸賃價格調査委員會ノ議事ニ參加シタル者其ノ調査、審査又ハ議事ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十五條 調査委員ノ選舉ニ關シ當選ヲ得又ハ得シメ若ハ得シメザル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與ヲ爲シ、饗應接待ヲ爲シ又ハ其等ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ供與若ハ饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ又ハ其等ノ申込ヲ承諾シタル者亦前項ニ同ジ
前二項ニ規定スル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタル者亦第一項ニ同ジ

第六十六條 調査委員ノ選舉ニ關シ投票ヲ得又ハ得シメ若ハ得シメザル目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲シ又ハ通達シテ個個ノ選舉人ニ面接シ若ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第六十八條 本法ハ國有ノ家屋ニハ之ヲ適用セズ

附 則

第六十九條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ家屋稅ノ賦課徵收ニ關スル規定ハ昭和十七年分家屋稅ヨリ之ヲ適用ス

第七十條 第四條及第五條ノ規定ハ當分ノ内家屋稅ヲ課セザル家屋ニ付之ヲ適用セズ

第七十一條 家屋稅ニ付爲スベキ第一回ノ一般ノ貸賃價格調査ハ昭和十五年七月一日現在ノ家屋稅ヲ課スベキ家屋ニ付之ヲ爲シ其ノ貸賃價格ハ昭和十七年一月一日ニ於テ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ第四十五條中十月三十一日トアルハ十一月二十日トス

第七十二條 前條ノ規定ニ依リ一般ノ貸賃價格ヲ定ムル場合ニ於ケル第十四條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中四月二日トアルハ七月二日トス
第七十三條 昭和十五年七月一日ニ於テ家屋稅ヲ課スベキ家屋ヲ所有スル者ハ同年八月三十一日

第七十四條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第七十五條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第七十六條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第七十七條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第七十八條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第七十九條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十一條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十二條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十三條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十四條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十五條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十六條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十七條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十八條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第八十九條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

第九十條 家屋ノ第一回ノ一般ノ賃貸價格改定ハ昭和二十五年一月一日ニ於テ之ヲ行フ

建 築 税

○建築税法 (昭和十五年三月二十九日法律第三十號)

第一條 本法施行地ニ於テ左ニ掲グル家屋ヲ建築(増築及改造ヲ含ム以下同ジ)シタル者ニハ本法

ニ依リ建築税ヲ課ス

一 居住ノ用ニ供スル家屋

二 料理店業、席貸業其ノ他之ニ類スル營業ノ用ニ供スル家屋ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

三 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供ス

ルコトヲ目的トスルモノヲ含ム)ノ開催ノ用ニ供スル家屋

第二條 建築税ハ家屋(附屬工作物ヲ含ム以下同ジ)一構毎ニ其ノ建築價額ヲ標準トシテ之ヲ賦

課ス

前項ノ建築價額ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 構ノ家屋ノ一部ガ前條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ以テ一構ノ家屋ト看做ス

第三條 第一條ニ掲グル家屋ヲ新築シタル者新築竣成後一年以内ニ其ノ家屋ト一構ト爲ルベキ建築ヲ爲シタル場合ニ於テハ前後ノ建築ヲ通ジテ一建築ト看做シ本法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ建築税ヲ課スベキ場合ニ於テ既ニ建築税ヲ課シタル部分アルトキハ其ノ建築税ニ相當スル金額ヲ建築税額ヨリ控除ス

第四條 建築税ハ建築價額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ノ百分ノ十二相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第五條 左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築税ヲ課セズ

一 建築價額一萬圓未滿ノ家屋

二 公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體ガ建築シタル家屋

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

第六條 左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築税ヲ免除ス

一 災害ニ因リ滅失又ハ損壞シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

二 法令ニ依リ收用又ハ使用セラレタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋及法令ニ依ル敷地ノ收用

又ハ使用ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋

第七條 建築税ニ付納税義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築價額ヲ政府ニ申告スベシ

第八條 建築價額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

建築價額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

第九條 建築税ハ建築竣成ノ際之ヲ徵收ス

第十條 建築税ハ家屋ノ所在地ヲ以テ納税地トス

納税義務者納税地ニ現住セザルトキハ建築價額ノ申告、納税其ノ他建築税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ

第十一條 本法ノ適用ニ付テハ被相續人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ相續人ノ爲シタルモノト看做シ

合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 收税官吏ハ家屋ヲ建築シタル者、建築工事請負人、建築工事管理者若ハ建築材料供給者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ家屋、建築ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ建築税ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十四條 第十三條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 第十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ支那事變特別稅法ニ依リ課セラレタル建築税ハ之ヲ本法ニ依リ課セラレタル建築税ト看做ス

○建築稅法施行規則 (昭和十五年三月三十一日勅令第四百四十號)

第一條 建築稅法第一條第二號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スベキ家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 料理店

二 貸席

三 貸座敷

四 引手茶屋

第二條 建築價額ハ左ニ掲グル金額ノ合計額ニ依ル

一 家屋ノ建築ニ要シタル金額(臺、建具其ノ他ノ造作ニ要シタル金額ヲ含ム)

二 電氣、瓦斯、水道其ノ他ノ附屬設備ノ設置ニ要シタル金額

三 門、圍障、庭園其ノ他ノ附屬築造物ノ築造ニ要シタル金額

第三條 建築稅法第五條第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

一 府縣組合、市町村組合、町村組合及市町村内ノ區

二 市町村學校組合、町村學校組合及學區

三 水利組合、水利組合聯合及北海道土功組合

第四條 建築稅法第五條第三號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課セザル家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 長屋、共同住宅及寄宿舎

二 一時ノ使用ニ供スル家屋

- 第五條 建築税法第六條第三號ノ規定ニ依リ建築税ヲ免除スル家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 一 土地區劃整理ノ施行ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
 - 二 行政執行法第四條ノ處分ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
- 第六條 建築税法第六條及前條ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築税ヲ免除ス但シ其ノ家屋ノ床面積ガ前ノ家屋ノ床面積ヲ超過スル場合ニ於ケル超過部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ前項但書ノ場合ニ於ケル超過部分ノ建築價額ハ新ニ建築シタル家屋ノ床面積ニ對スル該超過部分ノ床面積ノ割合ヲ其ノ家屋ノ建築價額ニ乘ジテ之ヲ計算ス
- 前二項ノ床面積ハ各階(地階ヲ含ム)ノ床面積ノ合計額ニ依リ各階ノ床面積ハ家屋ノ外壁又ハ之ニ代ルベキ柱ノ中心線内ノ面積ニ依ル
- 第七條 建築税法第六條及前二條ノ規定ニ依リ建築税ノ免除ヲ受ケントスル者ハ同法第八條第一項ノ規定ニ依リ建築價額決定前事由ヲ具シ所轄稅務署ニ申請スベシ
- 前項ノ申請書ニハ從前ノ家屋ノ所在地、用途、構造及床面積ヲ記載スベシ
- 第八條 建築税ニ付納稅義務アル者ハ建築竣成後二十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ
 - 一 家屋ノ所在地
 - 二 家屋ノ用途、構造及床面積
 - 三 建築價額
 - 四 建築竣成ノ年月日
 - 五 建築工事請負人又ハ建築工事管理者アルトキハ其ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 六 建築税法第三條ニ該當スル建築ニ在リテハ其ノ旨及既ニ建築税ヲ課セラレタル部分アルトキハ其ノ稅額

- 家屋ノ一部ガ建築税法第一條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ申告書ニハ家屋全部ノ用途、構造、床面積及建築價額ヲ併セ記載スベシ
 - 第九條 稅務署長建築價額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ
 - 第十條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ
 - 第十一條 收稅官吏建築税法第十二條ノ規定ニ依リ家屋、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ
- 附 則
- 本令ハ建築税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

通行税法

○通行税法 (昭和十五年三月二十九日法律第四十三號)

第一條 汽車、電車、乗合自動車及汽船ノ乗客ニハ本法ニ依リ通行税ヲ課ス

第二條 通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

乗車船區間四十料以下ナルトキ

一等

十錢

二等

五錢

乗車船區間八十料以下ナルトキ

一等

二十錢

二等

十錢

三等

二錢

乗車船區間百二十料以下ナルトキ

通行税 通行税法

一等 三十錢
 二等 十五錢
 三等 五錢

乗車船區間百六十軒以下ナルトキ

一等 六十錢
 二等 三十錢
 三等 十錢

乗車船區間三百軒以下ナルトキ

一等 一圓三十錢
 二等 六十錢
 三等 二十錢

乗車船區間五百軒以下ナルトキ

一等 一圓八十錢
 二等 九十錢
 三等 三十錢

乗車船區間八百軒以下ナルトキ

一等 二圓四十錢
 二等 一圓二十錢
 三等 四十錢

乗車船區間八百軒ヲ超ユルトキ

一等 三圓
 二等 一圓五十錢
 三等 五十錢

回数乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

回数二十回以下ナルトキ 前項税額ノ五倍
 回数五十回以下ナルトキ 前項税額ノ十倍
 回数五十回ヲ超ユルトキ 前項税額ノ二十倍
 定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス
 契約期間一月以内ナルトキ 第一項税額ノ五倍
 契約期間三月以内ナルトキ 第一項税額ノ十倍

契約期間六月以内ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍
契約期間六月ヲ超ユルトキ 第一項稅額ノ三十倍

團體乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

人員五十人以下ナルトキ 第一項稅額ノ五倍

人員百人以下ナルトキ 第一項稅額ノ十倍

人員二百人以下ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍

人員二百人ヲ超ユルトキ 第一項稅額ノ三十倍、運賃ニ依リ之ヲ課ス

貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等及二等 貸切運賃ノ百分ノ十

三等 貸切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乗客定員數ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十二歳未満ノ乗客ニ付テハ其ノ半額トス

前項ノ稅額二十錢ニ滿タザル端數アル場合ニ於テハ其ノ端數ガ五錢以上ナルトキハ之ヲ五錢トシ五錢ニ滿タザルトキハ之ヲ切捨ツ但シ其ノ全額五錢ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 急行車船ニ乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ルノ外急行料金ノ百分

ノ十ノ稅率ニ依リ通行稅ヲ課ス

前條第八項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ニ付之ヲ準用ス

第四條 乘車船區間四十料以下ノ三等乗客ニハ通行稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル通行稅ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ命令ノ定ムルモノニハ通行稅ヲ課セズ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第二條第一項及第四條ノ乘車船區間ノ料程ノ計算ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 往復乘車船又ハ廻遊乘車船ノ契約ヲ爲シタルトキ

二 運賃ガ均一制又ハ區間制ニ依リ定メラレタルトキ

第七條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ

付テハ第二條第一項、第五項及第四條ノ等級ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム乗客定員數ノ定ナキ車船ニ

付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第六項ノ乗客定員數ニ付亦同シ

第八條 通行稅ハ汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者(以下運輸業者ト稱ス)

運賃又ハ急行料金領收ノ際之ヲ徴收シ翌月末日迄ニ政府ニ納ムベシ

第九條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營メントスル者及運輸業者ニ代リテ乘

車料

車船券ヲ販賣セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セ
 ントスルトキ亦同シ

第十條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務
 ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ
 必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第十一條 第八條ノ規定ニ依リ徵收スベキ通行税ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納
 付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第十二條 收稅官吏ハ運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又
 ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第十條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 前條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務
 ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ニシテ支那事變特別稅法第二十四條又ハ第
 二十五條第二項ノ規定ニ依リ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト
 看做ス

○通行稅法施行規則 (昭和十五年三月三十一日勅令第五百五十二號)

第一條 通行稅法第五條ノ規定ニ依リ陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノ
 ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 鐵道軍事供用令ニ依ル乘車

二 軍事上ノ必要ニ依リ貨切ノ契約ニテ爲ス乘船

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ乘車船區間ノ料程ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計
 算ス

- 一 往復乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乗車船區間ノ料程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス
- 二 廻遊乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乗車船區間ノ料程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス
- 三 均一制又ハ區間制ニ依リ運賃ヲ定メタル區間ヲ乗車船スル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ該乗車船契約ニ依リ乗車船シ得ベキ區間中最モ短キモノニ依リ乗車船區間ノ料程ヲ計算ス
- 第三條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ通行税法第二條第一項、第五項及第四條ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ三等、二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等及三等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等トス
- 第四條 乗客定員數ノ定ナキ車船ニ付貨切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行税法第二條第六項ノ乗客定員數ハ運賃計算ノ基準ト爲リタル人員ニ依ル
- 第五條 通行税法第八條ノ運輸業者通行税ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ
- 前項ノ計算書ハ鐵道省ニ在リテハ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得
- 第六條 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務署ニ提出スベシ

- 一 住所及氏名又ハ名稱
- 二 營業所ノ所在地及其ノ名稱
- 三 運輸業ノ種類(汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ノ區別)
- 四 線路、路線又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及料程
- 五 汽車、電車、乗合自動車又ハ汽船ノ等級區分
- 六 乗車船券ノ種類
- 第七條 運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地並ニ運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スベシ
- 第八條 稅務署長ハ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得
 - 一 停車場、停留所又ハ乗船場ノ名稱及其ノ所在地
 - 二 停車場、停留所又ハ乗船場間ノ料程
 - 三 運賃ヲ料制ニ依リ定メタルトキハ一料當運賃、區間制ニ依リ定メタルトキハ各區間及其ノ運賃、均一制ニ依リ定メタルトキハ均一運賃
 - 四 回数、定期、團體又ハ貸切ノ乗車船ニ付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃
 - 五 運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ其ノ販賣場ノ所在地

六 連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線又ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乗船場ノ名稱及該停車場、停留所又ハ乗船場間ノ料程

第九條 前三條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ

第十條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ業ヲ相續又ハ合併ニ因リテ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十一條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者其ノ業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十二條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ毎日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 稅率ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレタル者ノ人員及稅額

二 通行稅法第四條及第五條ノ區別ニ從ヒ通行稅ヲ課セラレザル者ノ人員

第十三條 第六條乃至前條ノ規定ハ鐵道省ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條 收稅官吏通行稅法第十二條ノ規定ニ依リ帳簿書類ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

附 則

本令ハ通行稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○通行稅法施行細則 (昭和十五年四月一日大藏省令第十六號)

第一條 通行稅法施行規則第五條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スベシ

第二條 日本銀行ニ於テ通行稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

附 則

本令ハ通行稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

領收證書

第何號	何年度	通行税		
何縣何郡何町何番地				
何會社 代表者 何某納 (其ノ他之ニ準ズ)				
<table border="1"> <tr> <td>Y</td> <td></td> </tr> </table>			Y	
Y				
昭和何年何月何日領收				
日本銀行何店團				

備考

一、日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

通知

第何號	何年度	
租 税	通行税 通行	
何縣何郡何町何番地		
何會社 代表者 何某納 (其ノ他之ニ準ズ)		
<table border="1"> <tr> <td>Y</td> </tr> </table>		Y
Y		
昭和何年何月何日		
日本銀行何店團		
何稅務署長官氏		

書

大藏省主管
稅 何稅務署
地 者 何某納
領收
行何店團
名殿

第二號書式(用紙適宜輪廓三寸五分二枚接續)

通行税拂込書

第何號	何年度	大藏省主管		
租 税	通行税 通行	稅 何稅務署		
<table border="1"> <tr> <td>Y</td> <td></td> </tr> </table>			Y	
Y				
頭書ノ金額拂込候也				
何縣何郡何町何番地				
何會社 代表者 何某團 (其ノ他之ニ準ズ)				
日本銀行何店宛				
昭和何年何月何日				

備考

一、本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ

第一號書式(用紙適宜輪廓三寸五分)

區 別	分 程	票 稅						非 課 稅 人	合 計 人	稅 額	摘 要
		大 等 人	二 等 人	三 等 人	小 等 人	二 等 人	三 等 人				
普通乘客	四十軒以下										
	八百軒超過										
計	計										
	計										
同敷乘客	四十軒以下										
計	八百軒超過										
	計										
定期乘客	四十軒以下										
計	八百軒超過										
	計										

區 別	分 程	票 稅						非 課 稅 人	合 計 人	稅 額	摘 要
		大 等 人	二 等 人	三 等 人	小 等 人	二 等 人	三 等 人				
普通乘客	四十軒以下										
	八百軒超過										
計	計										
	計										
同敷乘客	四十軒以下										
計	八百軒超過										
	計										
定期乘客	四十軒以下										
計	八百軒超過										
	計										

昭和何年何月何日

何 會 社 團

備 考
 一、 通行稅法第二條及第三條所定ノ稅率區別ニ依リ記載スルモノトス
 二、 往復乘車船ハ船ニ遊乗テ各區間毎ニ條ニ爲シ一人第ト依リ非課稅ト爲ス
 三、 遊乘車船ニハ船ニ遊乗テ各區間毎ニ條ニ爲シ一人第ト依リ非課稅ト爲ス
 四、 貨物乘車船ニハ船ニ遊乗テ各區間毎ニ條ニ爲シ一人第ト依リ非課稅ト爲ス

入場税

○入場税法（昭和十五年三月二十九日法律第四十四號）

第一條 本法ニ依リ入場税及特別入場税ヲ課ス

第二條 入場税ハ左ニ掲グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種

一 演劇、活動寫眞、演藝又ハ観物（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ観覧ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ヲ催ス場所

二 競馬場

三 前二號ニ掲グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ観覧又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

第二種

入場税 入場税法

第一種 舞踏場、麻雀場、撞球場

第二種 ゴルフ場、ホステット場

第三條 入場税ノ税率左ノ如シ

第一種ノ場所

入場料ガ一人一回一圓未滿ナルトキ

入場料ノ百分ノ十

入場料ガ一人一回一圓以上三圓未滿ナルトキ

入場料ノ百分ノ二十

第二種ノ場所

入場料ノ百分ノ十

回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルトキ

入場料ノ百分ノ二十

第二種ノ場所

入場料ノ百分ノ十

其ノ他 入場料ノ百分ノ二十

本法ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 第二種ノ場所ノ入場料ガ一人一回十九錢ニ滿タザル場合ニハ入場税ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物

ヲ謂フ以下同ジ)若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ命令ノ定ムル所ニ

依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ

入場料ヲ免除ス

第六條 入場税ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領

收ノ際之ヲ徴收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ付テハ命令ヲ以テ

定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第七條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ命令ノ

定ムル所ニ依リ其ノ管ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第八條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所

ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第九條 特別入場税ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ業トセザル者ノ行フモノ

ニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第十條 特別入場税ノ税率ハ特別入場料ノ百分ノ十トス

本法ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

第三條第三項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十一條 特別入場料ガ一人一四十九錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場税ヲ課セズ

第四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十二條 特別入場税ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收シ競技終了後直ニ政府ニ

納ムベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十三條 第五條、第七條及第八條ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十四條 第六條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ徵收スベキ税金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタ

ル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第十五條 收稅官吏ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對

シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

第十六條 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營

シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第十五條第一項ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又

前項ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者

第十八條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ

設備利用者ニ對シ入場税ノ課稅標準タル入場料ヲ標準トシテ地方税ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ特別入場税ニ付之ヲ準用ス

本法ニ附屬則正予國民ニ對シテ之ヲ施行スルニ關シテハ同法ニ

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅法第二十六條ニ規定スル第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營スル者又ハ同第二種ノ場所ヲ經營スル者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ支那事變特別稅法第三十三條ニ規定スル運動競技ヲ開催スル者ニシテ同法ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノニ付之ヲ準用ス

○入場稅法施行規則 (昭和十五年三月三十一日勅令第百五十三號)

第一條 入場稅法第二條ニ掲グル第一種第三號ノ場所ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 博覽會場

二 展覽會場

三 遊園地

四 鍛鍊馬場

第二條 入場稅法第二條ニ規定スル第一種ノ場所ノ入場料ハ觀覽料、座席料、仲錢、下足料、敷物料其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ入場ノ爲ニ支拂フベキ金額ノ合計額ニ依ル

入場稅法第二條ニ規定スル第二種ノ場所ノ入場料ハ舞蹈料、競技料、會費其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ入場スル者ガ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ニ依ル

第三條 入場稅法第五條ニ規定スル收益ノ總額ハ入場料總額ヨリ其ノ入場料ヲ得ルニ直接必要ナル經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

第四條 入場料又ハ收益ノ總額ヲ左ノ目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場稅法第五條ノ規定ニ依リ入場稅ヲ免除ス

一 軍人ノ慰恤並ニ支那事變ノ爲ニ從軍シタル軍人及軍屬ノ家族又ハ遺族ノ慰問其ノ他ノ軍事援護

二 兵器、艦船其ノ他ノ國防金品ノ獻納

第五條 第一種ノ催物 (第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同ジ) 若ハ設備ノ主催者ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場稅法第五條ノ規定ニ依リ入場稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ七日前ニ左ノ事項ヲ具シ第一種又ハ第二種ノ場所ノ所轄稅務署ニ申請シ承認ヲ受クベシ

一 期間

二 入場料又ハ收益ノ總額ヲ支出スベキ事業又ハ目的

- 三 入場料
- 四 収入支出ノ概算書
 - 前項ノ承認ヲ受ケタル者其ノ開催若ハ經營ヲ終了シタルトキハ直ニ證書類ヲ添ヘ收入支出ノ計算書ヲ提出スベシ
- 第六條 入場税法第六條ノ規定ニ依リ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場税ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ但シ常時開設ニ非ザルモノニ在リテハ左ノ場合ヲ除クノ外終了後直ニ之ヲ拂込ムベシ
 - 一 開催又ハ經營ノ期間ガ一月以上ニ互ル場合
 - 二 開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合
- 第七條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ
 - 一 主催者又ハ經營者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 二 第一種又ハ第二種ノ場所ノ所在地及其ノ名稱
 - 三 催物又ハ設備ノ種類

- 四 各等級別觀客定員及入場料
- 五 入場券發賣ノ方法
- 六 第一種又ハ第二種ノ場所ノ構造其ノ他設備ノ概要
- 七 開設ノ年月日及開催又ハ經營ノ期間
- 第八條 第一種ノ催物若ハ設備又ハ第二種ノ場所ニシテ常時開設スルモノノ主催者又ハ經營者其ノ主催又ハ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スベシ
- 第九條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ前二條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スベシ
- 第十條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ
- 第十一條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スベシ
- 第十二條 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

- 第十一條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者ハ經營又ハ第二種ノ場所ノ經營ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ
- 第十二條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者第一種又ハ第二種ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第七條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ
- 第十三條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者ハ入場料領收ノ際入場券ヲ發行スベシ但シ稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十四條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ催物又ハ設備ノ種類別ニ稅率ノ區別ニ從ヒ毎日少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ
 - 一 入場シタル人員及入場料ノ總額
 - 二 入場券ノ受入及拂出
 - 三 入場稅額
- 第十五條 入場稅法第十二條ノ規定ニ依リ運動競技ノ主催者特別入場稅ヲ徵收シタルトキハ競技終了後直ニ拂込書及計算書ヲ添へ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ但シ左ノ場合ハ翌月十日迄ニ之ヲ拂込ムベシ
 - 一 開催ノ期間ガ一月以上ニ亙ル場合
 - 二 開催期日一月前ヨリ入場券ヲ發賣スル場合

- 第十六條 第二條第一項、第三條乃至第五條、第七條乃至第九條、第十一條、第十三條及第十四條ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス
- 第十七條 收稅官吏入場稅法第十五條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ

附 則

本法ハ入場稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○入場税法施行細則（昭和十五年四月一日大蔵省令第十七號）

第一條 入場税法施行規則第六條及第十五條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スベシ

第二條 日本銀行ニ於テ入場税及特別入場税ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添付シ之ヲ歳入徴收官ニ送付スベシ

附 則

本令ハ入場税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（用紙適宜輪廓縦四寸五分横三寸三分）

入場税(又ハ特別入場税)拂込書

第 何 號	何 年 度	大 藏 省 主 管	
租 税	入 場 税	入 場 税 (又ハ特別入場税)	何 稅 務 署
<div style="border: 1px solid black; width: 80%; margin: auto; padding: 5px;"> Y </div>			
頭書ノ金額拂込候也			
場 所			
住 所			
氏名又ハ名稱印			
日本銀行何店宛			
昭和何年何月何日			

備 考 本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ

入場税 入場税法施行細則

第二號書式(用紙適宜輪廓三寸五分二枚接續)

通 知 書

第 何 號	何 年 度	大 藏 省 主 管	
租 稅	入 場 稅	入 場 稅 (又 特別入場稅)	何 稅 務 署
場 住 所	氏名又ハ名稱 納		
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 30px; margin: 10px auto;"> Y ■ </div>			
昭和何年何月何日領收			
日本銀行何店 團			
何稅務署長官氏名殿			

領 收 證 書

第 何 號	何 年 度	入 場 稅 (又 特別入場稅)	
場 住 所	氏名又ハ名稱 納		
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 30px; margin: 10px auto;"> Y ■ </div>			
昭和何年何月何日領收			
日本銀行何店 團			

備考 日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

入場稅 入場稅法施行規則

○入場税法施行規則第十七條ノ規定ニ依ル検査章書式ノ件(昭和十五年四月一日
大藏省令第十八號)
書式(用紙厚質白紙横二寸五分)

第何號	何稅務署	官氏	名
入場稅	ニ關スル	検査	章
特別入場稅			稅務署印
年月日交付		何稅務署	

附則

本令ハ入場税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

登 錄 稅

○登録税法 (明治二十九年三月二十八日法律第二十七號)

- 改正明治三十年三月法律第三十一號(1)
 明治三十二年三月法律第六十號(2)
 明治三十二年三月法律第八十三號(3)
 明治三十三年三月法律第四十四號(4)
 明治三十四年四月法律第二十六號(5)
 明治三十五年二月法律第八號(6)
 明治三十八年一月法律第九號(7)
 明治三十八年三月法律第五十七號(8)
 明治三十八年三月法律第五十八號(9)
 明治三十九年四月法律第三十五號(10)
 明治四十二年三月法律第十四號(11)
- 明治四十二年四月法律第三十一號(12)
 明治四十三年三月法律第十一號(13)
 明治四十三年六月法律第六十四號(14)
 大正三年三月法律第二十一號(15)
 大正七年三月法律第十四號(16)
 大正十一年四月法律第四十六號(17)
 大正十四年三月法律第二十一號(18)
 昭和二年三月法律第六號(19)
 昭和四年四月法律第六十三號(20)
 昭和六年四月法律第五十二號(21)
 昭和七年九月法律第二十五號(22)

- 昭和八年三月法律第二十號(23)
- 昭和八年三月法律第二十一號(24)
- 昭和八年三月法律第三十號(25)
- 昭和八年三月法律第三十一號(26)
- 昭和八年四月法律第四十四號(27)
- 昭和九年五月法律第四十八號(28)
- 昭和十年四月法律第三三號(29)
- 昭和十一年五月法律第十一號(30)
- 昭和十一年五月法律第十四號(31)
- 昭和十一年五月法律第十五號(32)
- 昭和十一年五月法律第三十號(33)
- 昭和十一年六月法律第四十三號(34)
- 昭和十二年八月法律第五十三號(35)
- 昭和十二年八月法律第七十四號(36)
- 昭和十二年八月法律第七十七號(37)
- 昭和十三年三月法律第三十六號(38)
- 昭和十三年三月法律第三十七號(39)
- 昭和十三年三月法律第四十六號(40)
- 昭和十三年四月法律第五十七號(41)
- 昭和十三年四月法律第五十八號(42)
- 昭和十三年四月法律第六十七號(43)
- 昭和十三年四月法律第七十號(44)
- 昭和十三年四月法律第八十一號(45)
- 昭和十四年三月法律第四十五號(46)
- 昭和十四年四月法律第六十五號(47)
- 昭和十四年四月法律第六十九號(48)
- 昭和十四年四月法律第七十號(49)
- 昭和十四年四月法律第七十七號(50)
- 昭和十四年四月法律第八十二號(51)
- 昭和十五年四月法律第九十七號(52)

昭和十五年四月法律第一百一號(51)

昭和十五年四月法律第一百六號(54)

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(19)

一 相續ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ五

二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ四十(40)

但シ神社、法人タル宗教團體又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ寄附

行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十三(40・50)

三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ三十(40)

四 所有權ノ保存 不動産價格 千分ノ五

分割ニ因リテ受ク
ル不動産ノ價格 千分ノ五

五 共有物ノ分割 不動産價格 千分ノ一

六 地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得 不動産價格 千分ノ二

存續期間十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ四

同二十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ七

同三十年以下ノモノ 不動産價格

同五十年以下ノモノ 不動産價格

- 同七十年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ十
- 同百年以下ノモノ 不動産價格 千分ノ十五
- 同百年ヲ超ユルモノ 不動産價格 千分ノ二十
- 存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ一
- 存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條若ハ第二百七十八條ノ規定ノ適用アルモノ 不動産價格 千分ノ一
- 相續ニ因ル取得ニシテ存續期間三十年ヲ超ユルモノ 不動産價格 千分ノ四
- 權利移轉ニ因ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス 不動産價格 千分ノ五
- 七 地役權ノ取得 要役地價格 千分ノ一
- 八 華族世襲財産ノ設定 不動産價格 千分ノ二十五
- 九 先取特權ノ保存又ハ取得 債權金額又ハ不動産工事費用豫算金額 千分ノ五・五
- 十 質權、抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ五・五
- 十一 信託ノ登記 不動産價格 千分ノ五・五

- 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ四
- 所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ二
- 十二 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ五・五
- 十三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四
- 十四 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五
- 十五 相續財産ノ分離 不動産價格 千分ノ五・五
- 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一
- 所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一
- 十六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ四
- 十七 抹消シタル登記ノ回復 不動産每一箇 金四十錢
- 十八 假登記 不動産每一箇 金四十錢
- 十九 附記登記 不動産每一箇 金二十錢
- 但シ一件ニ付稅額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
- 二十 登記ノ更正、變更又ハ抹消 不動産每一箇 金二十錢

但シ一件ニ付税額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(19)

- 一 相続ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
- 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三十五
- 三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十三
- 四 委付 船舶價格 千分ノ三
- 五 所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ三
- 六 賃借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一
- 七 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ五・五
- 八 信託ノ登記 船舶價格 千分ノ三
- 九 所有權ニ付テハ 船舶價格 千分ノ一
- 十 競賣ノ申立 債權金額 千分ノ五・五
- 十一 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四

十一 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五

十二 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ四

十三 登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記 船舶每一箇 金一圓

十四 抹消シタル登記ノ回復 船舶每一箇 金四十錢

十五 假登記 船舶每一箇 金四十錢

十六 附記登記 船舶每一箇 金二十錢

十七 登記ノ更正、變更又ハ抹消 船舶每一箇 金二十錢

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二 信託財産タル不動産又ハ船舶ヲ受託者ヨリ受益者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ

登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(20) 不動産價格 千分ノ四十

但シ神社、法人タル宗教團體又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人カ受益者ナルトキハ千分ノ二十三(20)

船舶

船舶價格

千分ノ三十五

第三條ノ三 鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ム
ヘシ(9・12・14・19・40)

- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
- 一ノ二 信託ノ登録 債權金額 千分ノ一(17)
- 二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
- 三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓

第三條ノ四 工場財團登記簿、鑛業財團登記簿、漁業財團登記簿又ハ自動車交通事業財團登記簿

- ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(19・21・40)
- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
- 二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一
- 三 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
- 四 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一
- 五 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ一
- 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ

- 七 抹消シタル登記ノ回復 債權金額 千分ノ一
- 八 假登記 每一件 金二圓
- 九 附記登記 每一件 金二圓
- 十 登記ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二圓
- 第三條ノ五 農業用動産ノ抵當權ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(26・40)
- 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ二

- 但シ稅額金二十錢未滿ナルトキハ二十錢トス
- 二 抹消シタル登記ノ回復 農業用動産每一箇 金十錢
- 三 假登記 農業用動産每一箇 金十錢
- 四 附記登記 農業用動産每一箇 金五錢
- 但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス
- 五 登記ノ更正、變更又ハ抹消 農業用動産每一箇 金十錢
- 但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス

第四條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(3)

一 新規登録 毎十噸 金五十錢

二 轉籍 毎十噸 金十錢

三 除籍 毎十噸 金五錢

四 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條 削除(19)

第六條 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅
又納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額二十圓未滿ナルトキハ二十圓ト
ス(3・13・40)

一 合名會社、合資會社設立 財産ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ五(13・19)

二 合名會社、合資會社出資増加 財産ヲ目的トスル増出資ノ價格 千分ノ五(13・19)

三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ五(13)

四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ五

但シ社債ノ轉換ニ因ル資本増加ノ場合ニ於テハ其ノ社債ニ付第十一號ノ規定ニ依リ納メ
タル登録稅額ヲ控除ス(46)

五 株式會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ五(13)

六 株式合資會社設立 拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五(13)

七 株式合資會社資本増加 増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五(46)

但シ社債ノ轉換ニ因ル資本増加ノ場合ニ於テハ其ノ社債ニ付第十一號ノ規定ニ依リ納メ
タル登録稅額ヲ控除ス(46)

八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込 毎回拂込株金額 千分ノ五(13)

八ノ二 有限會社設立 出資ノ價格 千分ノ五(46)

八ノ三 有限會社資本増加 増出資ノ價格 千分ノ五(46)

九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立

拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格

千分ノ一(13・19)

但シ合併ニ因リ消滅シタル會社又ハ組織變更ヲ爲シタル會社ノ合併當時又ハ組織變更當時ノ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五

十 合併ニ因ル會社資本ノ増加

増資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格

千分ノ一(13)

但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ千分ノ五

十一 社債又ハ第二回以後ノ社債拂込(13・15・19・31・34・35・38・44・45・51)

商法第三百三條又ハ其ノ準用規定ニ依ル拂込アリタル日(賣出シノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出満了ノ日)ヨリ最終ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ

毎回拂込金額

千分ノ一(46)

同三年以下ノモノ

毎回拂込金額

千分ノ二

同三年ヲ超ユルモノ

毎回拂込金額

千分ノ三

但シ産業債券、商工債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券、臺灣拓殖債券、東洋拓殖債券、北支開發債券、東北興業債券、肥料債券、燃料興業債券、産金振興債券又ハ鑛業開發債券ニ付テハ千分ノ二(53)

十二 支店設置

每一箇所

金二十圓(13・19)

十三 本店又ハ支店ノ移轉

每一件

金十圓(13・19)

十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅

每一件

金十圓(13・19)

十四ノ二 社員ノ業務執行權ノ喪失

每一件

金十圓(46)

十四ノ三 取締役又ハ監査役ノ職務執行ノ停止

每一件

金十圓(46)

十四ノ四 取締役又ハ監査役ノ職務代行者ノ選任

每一件

金十圓(46)

十四ノ五 取締役又ハ無限責任社員ノ職務ヲ行フ監査役ノ選任

每一件

金十圓(46)

金十圓(46)

十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金十圓(13・19)
但シ商法施行法又ハ商法中改正法律施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス(46)

十六 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金十圓(13・19)

十六ノ二 會社ノ繼續ノ登記 每一件 金十圓(46)

十六ノ三 合併ヲ無効トスル判決カ確定シタル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル會社ニ付テ

ノ回復ノ登記 每一件 金十圓(46)

十六ノ四 會社設立ノ無効又ハ取消 每一件 金七圓(46)

十七 解散 每一件 金七圓(13・19)

十八 商法第二百二十三條又ハ其ノ準用規定ニ依ル登記

每一件 金二圓(46)

十八ノ二 清算人ノ職務執行ノ停止、其ノ取消又ハ變更

每一件 金二圓(46)

十八ノ三 清算人ノ職務代行者ノ選任、解任又ハ變更

每一件 金二圓(46)

十八ノ四 清算人ノ職務ヲ行フ監査役ノ選任、解任又ハ變更

每一件 金二圓(46)

十九 清算ノ結了 每一件 金二圓(13・19)

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキ亦同シ(13・16・19)

第六條ノ二 恩給金庫カ恩給債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(41)

一 恩給債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込 毎回拂込金額 千分ノ二

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金十圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
第六條ノ三 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(3・43)

一 商號ノ新設又ハ取得 每一件 金十圓(13・19)

二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓(13・19)

三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓(13・19)

四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金五圓(13・19)

四ノ二 商法第二十六條第二項ノ登記 每一件 金五圓(46)

- 五、民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記
每件 金五圓(13・19)
- 六、登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
每件 金二圓(13・19)
- 七、登記ノ更正又ハ抹消
每件 金二圓(13・19)
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登録税ヲ納ムヘシ(13・19)
- 第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
 - 一、新規登録 金二十圓
 - 二、登録換 金十圓
 - 三、取消ノ請求 金一圓
- 第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ
 - 一、新規登録 金二十圓
 - 醫師 金十二圓
 - 藥劑師 金十二圓
 - 獸醫 金十二圓

- 蹄鐵工 金五圓
- 假開業醫師 金五圓
- 假免許獸醫 金三圓
- 假免許蹄鐵工 金一圓(3)
- 二、登録事項ノ變更 每一件 金五十錢
- 第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ(3)
 - 一、新規登録
 - 甲種船長 金十五圓
 - 甲種一等運轉士 金十圓
 - 甲種二等運轉士 金六圓
 - 乙種船長 金十圓
 - 乙種一等運轉士 金四圓
 - 乙種二等運轉士 金三圓
 - 丙種船長 金六圓
 - 丙種運轉士 金二圓

機長

金十五圓

一等機關士

金十圓

二等機關士

金六圓

三等機關士

金三圓

水先人

金二十圓

二 登録事項ノ變更

每一件

金五十錢

第十條 著作權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(14)

一 著作權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

二 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額

千分ノ五・五(19)

三 前號ノ權利ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

四 無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登録

每一件

金二圓

四ノ二 信託ノ登録

每一件

金一圓(17)

四ノ三 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號及第二號ノ權利ノ處分ノ制限

債權金額

千分ノ四(28)

四ノ四 著作年月日ノ登録

每一件

金一圓(28)

四ノ五 抹消シタル登録ノ回復

每一件

金五十錢(28)

四ノ六 假登録

每一件

金五十錢(28)

五 登録ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二十錢

第十條ノ二 出版權ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(28)

一 出版權ノ設定

每一件

金十圓

二 出版權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

三 出版權ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額

千分ノ五・五

四 前號ノ權利ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 五 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 七 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
- 八 假登録 每一件 金五十錢
- 九 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十條 特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(12)
- 一 特許權ノ移轉 金二十錢
- 二 相續 每一件 金一圓
- 三 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
- 四 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金五圓(19)
- 五 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五(19)
- 六 前二號ノ權利ノ移轉 每一件 金五十錢
- 相續 每一件 金五十錢

- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二圓
- 五 信託ノ登録 每一件 金二圓(17)
- 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢(19)
- 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢(19)
- 九 假登録 每一件 金五十錢(19)
- 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(12・19ニヨリ二項削ル)
- 一 意匠權ノ移轉
- 相續
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金二圓
- 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五(19)
- 四 前二號ノ權利ノ移轉

- 相續 每一件 金五十錢
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 五 信託ノ登録 每一件 金一圓(17)
- 六 滞納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢(19)
- 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢(19)
- 九 假登録 每一件 金五十錢(19)
- 十 登録ノ更生、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(12・19ニ依リニ項削ル)
- 一 實用新案權ノ移轉 金一圓
- 相續 每一件 金一圓
- 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金五圓
- 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 每一件 金二十圓(19)
- 債權金額 千分ノ五・五(19)

- 四 前二號ノ權利ノ移轉 金五十錢
- 相續 每一件 金一圓
- 五 信託ノ登録 每一件 金一圓(17)
- 六 滞納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢(19)
- 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢(19)
- 九 假登録 每一件 金五十錢(19)
- 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(12・19)
- 一 商標權ノ移轉 金一圓
- 相續 每一件 金一圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
- 二 信託ノ登録 每一件 金二十圓(17)

登録稅 登録稅法

三 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢(19)

四 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢(19)

五 假登録 每一件 金五十錢(19)

六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢

第十四條 鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(7・19依り)

(第二項)

- 一 試掘權ノ設定 每一件 金百圓(13)
- 二 試掘權ノ變更
 - 増區又ハ増減區 每一件 金四十五圓(13)
 - 減區 每一件 金十圓
- 三 試掘權ノ移轉
 - 相續 每一件 金十圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金四十五圓(13)
- 四 探掘權ノ設定
 - 新規登録 每一件 金二百圓(13)

鑛區合併

每一件

金五十圓

鑛區分割

設定鑛區每一箇

金五十圓

五 探掘權ノ變更

鑛區訂正

每一件

金五十圓

増區又ハ増減區

每一件

金百圓(13)

減區

每一件

金二十圓

六 探掘權ノ移轉

相續

每一件

金二十圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金百圓(13)

七 抵當權ノ設定

新規登録

債權金額

千分ノ五・五(19)

鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定

每一件

金五圓

八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更

每一件

金十圓

九 抵當權ノ移轉

- 相續 每一件 金五圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
- 信託ノ登録 每一件 金十圓 (17)
- 共同鑛業權者ノ脱退 每一件 金五圓
- 滞納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅 每一件 金五圓
- 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金四十錢 (19)
- 假登録 每一件 金四十錢 (19)
- 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢 (9)
- 第十五條 砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
(第十四・十九ニ依リ)
(第二項ニ依リ)
- 一 砂鑛權ノ設定 採取區域 河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪 金十五圓

- 砂鑛區合併 每一件 金三圓
- 砂鑛區分割 設定砂鑛區每一箇 金三圓
- 二 砂鑛權ノ變更
 - 増區 採取區域 河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪 金十五圓
 - 減區 每一件 金一圓
- 三 砂鑛權ノ移轉
 - 相續 每一件 金五圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十五圓
- 四 抵當權ノ設定 債權金額 千分ノ五・五 (19)
- 新規登録
 - 砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
 - 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金十圓
 - 抵當權ノ移轉 金十圓

- 相續 每一件 金五圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
- 七 信託ノ登録 每一件 金五圓(17)
- 八 滞納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 九 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅 每一件 金一圓
- 十 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金四十錢(19)
- 十一 假登録 每一件 金四十錢(19)
- 十二 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢(19)
- 第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録
稅ヲ納ムヘシ(第十四條ノ二依リ)
一 漁業權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
- 二 漁業權ノ持分ノ移轉 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓

- 相續 每一件 金四十錢(19)
- 三 入漁權ノ設定 每一件 金一圓
- 四 入漁權ノ保存 每一件 金三圓
- 五 入漁權ノ移轉 相續 每一件 金五十錢
- 六 入漁權ノ持分ノ移轉 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二十圓
- 七 貸借權ノ取得 相續 每一件 金二十錢(19)
- 八 先取特權ノ保存又ハ取得 債權金額又ハ工事費用豫算金額 每一件 金五十錢
- 九 抵當權ノ設定又ハ移轉 債權金額 千分ノ五・五(19)

- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 信託ノ登録 每一件 金二圓
 - 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ五・五(19)
 - 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四
 - 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五(19)
 - 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノノ 債權金額 千分ノ四(19)
 - 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金四十錢(19)
 - 假登録 每一件 金四十錢(19)
 - 附記登録 每一件 金二十錢(19)
 - 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢(19)
- 第十六條 法人ノ合併ニ因ル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル(19)

- 不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ三
- 前項ノ規定ハ保險業法ノ規定ニ從ヒ會社カ其ノ保險契約全部ノ移轉契約ニ因リテ不動産又ハ船舶ニ關スル權利ヲ移轉シタル場合ニ於テ其ノ權利ノ取得ニ付之ヲ準用ス(20)
- 第十六條ノ二 債權金額ニ依リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記又ハ登録スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債權金額ト看做ス(19)
- 第十六條ノ三 管轄ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動産登記法第二百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做ス(19)
- 第十六條ノ四 同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記登錄ヲ受クル場合ニ於ケル登録稅ニ關シテハ前條ノ規定ニ準シ命令ヲ以テ之ヲ定ム(19)
- 第十六條ノ五 信託契約ニ依ル物上擔保附社債ニシテ其ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノノ抵當

權ノ取得ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録税ヲ課セス擔保附社債信託法第百十九條ノ二ノ規定ニ依ル登記又ハ鐵道抵當法第三十條ノ二第二項ノ規定ニ依ル登記ヲ抵當權ノ取得ノ登記又ハ登録ト看做シ其ノ同ノ發行金額ヲ債權金額ト看做シテ登録税ヲ課スル
 前項ノ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記登録ヲ受クル場合ニ於ケル登録税ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録税ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
 第十九條 左ニ掲タルモノニハ登録税ヲ課セス但シ第二號ノ二、第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル(19・50)
 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
 二 神社ノ敷地ニ關スル登記(50)
 二ノ二 寺院ノ境内地若ハ教會ノ構内地又ハ寺院若ハ教會ノ用ニ供スル建物ニ關スル登記
 二ノ三 墳墓地ニ關スル登記(50)
 三 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ニ關スル登記

- 四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
- 五 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
- 六 市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以上ノ市町村ニ互ルモノヲ消滅セシムル爲市町村又ハ其ノ一部カ其ノ入會財産ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財産ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記
- 七 恩給金庫、產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、庶民金庫、蠶絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯合會、商業小組合、商業組合中央會、貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會、造船組合、造船組合聯合會、海運組合、海運組合聯合會、肥料製造組合、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ニ付恩給金庫法、產業組合法、庶民金庫法、蠶絲業法、漁業法、商工組合中央金庫法、工業組合法、商業組合法、貿易組合法、造船事業法、海運組合法、重要肥料業統制法又ハ自動車交通事業法ニ基キテ爲ス登記(2・28・30・31・33・35・39・41・42・43・47・48・49・52・54)

- 八 負債整理ノ爲ニスル負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記(24・25)
- 八ノ二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記(26)
- 九 農地調整法第三條若ハ第四條ノ團體又ハ第六條若ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者ニ對シ同法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記(27)
- 九ノ二 農地調整法第三條又ハ第四條ノ團體カ同法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記(28)
- 九ノ三 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者カ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記(29)
- 九ノ四 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記(30)
- 十 北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
- 十一 住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記
- 十二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル事業者ノ土地所有權ノ取得ノ登記(31)
- 十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記
- 十四 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記
- 十五 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ負債整理ノ爲ノ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記(24・27)
- 十六 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ヲ受ケタル者ガ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、産業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記(24・27)
- 十七 負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ同法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記(27)

十八 庶民金庫ノ業務ノ用ニ供スル不動産ニ關スル登記(4)

第十九條ノ二 信託ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登

録税ヲ課セス(4)

一 委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録

二 受託者ノミカ信託財産ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財産ヲ移ス

場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録

三 受託者ノ更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財産權取得ノ登記又ハ登録

前項第二號ノ規定ハ委託者ノ相續人ニ信託財産ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於

テハ當該相續人ノ財産權取得ノ登記又ハ登録ヲ以テ相續ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ト看

做シ登録税ヲ課ス

第十九條ノ三 會社ノ整理又ハ特別清算ニ關シ裁判所ノ囑託ニ因リテ爲ス登記又ハ登録ニ付テハ

登録税ヲ課セス(4)

第十九條ノ四 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回

復又ハ更正ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録税ヲ課セス(19・45ニ依リ條文以下線下)

第十九條ノ五 外國カ其ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シテ受クル登記ニハ命

令ノ定ムル所ニ依リ登録税ヲ免除ス但シ該當國カ帝國ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ

建物ニ關スル登記ニ付同様ノ免税ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス(20)

第十九條ノ六 登記所カ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價

格ヲ認定シ之ヲ登記所申請者ニ告知スヘシ(3・15・20)

第十九條ノ七 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請

求スルコトヲ得(16・20)

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課税標準ノ價格ヲ評定セシム評價人

ノ評價一致セザルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ

課税標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ八 前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方

裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(16・20)

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ九 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル税額ト認定價

格ニ相當ナル税額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ(16・20)

第十九條ノ十 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス(15・20)
 第十九條ノ十一 評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク(15・20)
 第十九條ノ十二 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ヲ超エサ
 ルトキハ此ノ限ニ在ラス(15・20)
 第十九條ノ十三 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ(15・20)

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複ス
 ルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附則(2)

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

附則(3)

此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作権法施行ノ日ヨリ施行ス

附則(7)

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登録ニ付テハ鑛業法施行ノ日ヨリ之

ヲ施行ス

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登録税ヲ納メタル者鑛業法ニ依
 リ其事項ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス

附則(11)

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ手数料ヲ納メタル者ハ砂鑛
 法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登録ニ付更ニ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ
 依ル登録ニ付亦同シ

附則(12)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十二年八月勅令第二百十二號及同
 年十月勅令第三百二號ヲ以テ定メラル)

附則(13)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中登録稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則(14)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年六月勅令第二百七十六號、同年八月勅令第三
 百十五號、同年十一月勅令第四百三十四號ヲ以テ定メラル)

附 則(16)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正三年十月勅令第二百二十四號ヲ以テ大正三年十一月十五日ヨリ施行)

附 則(16)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(17)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年十二月勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行)

附 則(18)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム(第三條ノ五ノ規定ハ大正十四年七月勅令第二百四十三號ヲ以テ大正十四年八月勅令第二百六十七號ヲ以テ大正十四年九月一日ヨリ施行)

附 則(19)

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權取得ニ付従前ノ規定ニ依リ登録稅ヲ課セラレタル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

附 則(20)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(20)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十年勅令第三十八號ヲ以テ昭和十年四月一日ヨリ施行)

附 則(40)

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ財產權取得ニ付従前ノ規定ニ依リ登録稅ヲ課セラレタルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

附 則(46)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第五百十號ニ依リ昭和十五年一月一日ヨリ施行)

商法中改正法律施行法第五十五條ニ規定スル社債ノ登記ニ付テハ登録稅法第六條第一項第十一號ノ改正規定ニ拘ラズ仍従前ノ例ニ依ル

○登録税法施行規則（明治三十二年五月十五日勅令第二百五號）

改正 明治三十八年三月二十五日勅令第七十七號（1）

大正 三年十月二十八日勅令第二百二十五號（2）

大正 七年十月五日勅令第四百十七號（3）

昭和 二年三月三十一日勅令第四十六號（4）

昭和 四年四月二十三日勅令第九十三號（5）

昭和 八年五月十八日勅令第一百五號（6）

昭和 八年七月三十一日勅令第二百六號（7）

昭和 十二年十二月一日勅令第七百號（8）

昭和 十三年六月八日勅令第四百三號（9）

昭和 十三年七月二十九日勅令第五百二十八號（10）

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條 官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登録若ハ假登録ヲ登記所又ハ登録官廳ニ囑託スヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登録官廳ニ送付スヘシ

第四條 同一債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニ於テ登記所又ハ登録官廳ニ於テ受クル登記又ハ登録ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記又ハ登録ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做シテ登録税ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ登記又ハ登録中ニ登録税法第三條ノ三又ハ第三條ノ四ニ該當スルモノト其ノ他ノモノトヲ包含スルトキハ先ツ登録税法第三條ノ三又ハ第三條ノ四ニ該當スルモノノ登記又ハ登録ニ付登録税ヲ徵收ス

第四條ノ二前條ノ規定ハ登録税法第十六條ノ五第二項ノ規定ニ依ル登録税ノ徵收ニ付之ヲ準用ス

第六條 登録又ハ登録ノ手續ニ關シテ其ノ詳細ハ登録税法第十六條ノ五第二項ノ規定ニ依ル登記又ハ登録カ第二回以後ノ社債ノ發行

三 關スルモノナルトキハ登録税ノ徵收ニ付テハ擔保ノ目的ニシテ前回迄ノ發行ニ付登録税ヲ納付シテ登記又ハ登録ヲ受ケタルモノノ價格ヨリ其ノ納付シタル登録税ノ算出ノ基準ト爲リタル金額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ回ノ發行ニ於ケル擔保ノ目的ノ價格ト看做ス(6)

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登録税法第十九條第八號ノ二乃至第九號ノ四又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス(10)

一 北海道府縣市町村、産業組合又ハ農事實行組合カ行フ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二 北海道府縣市町村、産業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合ニ對シ農地調整法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

三 北海道府縣市町村、産業組合、農事實行組合又ハ養蠶實行組合カ農地調整法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記

四 北海道府縣市町村、産業組合又ハ農事實行組合カ農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

五 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記

六 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ農事實行組合ノ土地所有權ノ取得ノ登記

第五條ノ二 左ニ掲タル住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記ニハ登録税法第十九條第十一號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス但シ一人ニ付各一箇ニ限ル(4)

一 住居ノ用ニ供スル家屋各階ノ坪數ノ合計カ三十五坪以下ナル住宅

二 七十坪以下ノ住宅用地

第五條ノ三 學校經營ヲ目的トスル法人ノ左ニ掲クル土地建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記ニハ登録税法第十九條第十四號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス(4)

一 校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上必要ナル附屬建物

二 前號ニ規定スル建物ノ敷地及運動場、實習用地其ノ他ノ直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スル土地

第五條ノ四 外國カ其ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シテ受クル登記ニシテ大藏大臣ニ於テ左ノ各號ニ該當スルモノト認メタルモノニハ登録税法第十九條ノ五ノ規定ニ依リ

登録税ヲ免除ス(5)

一 當該敷地又ハ建物カ直接大使館、公使館又ハ領事館ノ用ニ供セラルルコト
 二 當該國カ我國ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關スル登記ニ付同様ノ免税ヲ爲スコト

第五條ノ五 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ(昭和四年勅令九十號)

第五條ノ六 左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノ
 二ハ登録税法第十九條第八號、第十五號、第十六號又ハ第十七號ノ規定ニ依リ登録税ヲ免除ス(7・8)

一 負債整理組合(農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヲ含ム以下同シ)ノ農村負債整理組合法第十一條第二項ノ規定ニ依ル負債整理ノ爲メ資金ノ貸付ニシテ第五條第二號ニ掲クル事項ニ付同條第一號ノ場合ト同一ノ條件ヲ以テ行フモノニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行又ハ負債整理組合ノ負債整理ノ爲メ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

三 負債整理ノ爲メ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、産業組合中央金庫、信用組合又ハ負債整理組合ノ所有權ノ取得ノ登記

四 負債整理組合ノ農村負債整理組合法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記

第六條 登録税法第十九條ノ六ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ(2・5)

登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス
 第七條 登録税法第十九條ノ十一ニ依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ内國旅費規則ヲ準用ス(2・3・5)

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス
 第八條 登録税法第十九條ノ十一ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日三圓以上十圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム(2・3・5)

附 則(2)

本令ハ大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(3)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(4)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲シタル土地臺帳ノ登録ニ對スル登録税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則(5)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(6)

本令ハ昭和八年法律第四十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和八年法律第四十四號ハ昭和八年勅令第百一十四號ヲ以テ昭和八年五月二十日ヨリ施行)

附則(7)

本令ハ農村負債整理組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(農村負債整理組合法ハ昭和八年勅令第百二十四號ヲ以テ昭和八年八月一日ヨリ施行)

附則(8)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(9)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(10)

本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十三年勅令第五百二十五號ヲ以テ昭和十三年八月一日ヨリ施行)

【別表】 (大正十五年十月勅令第四百十七號ヲ以テ別表トス)

旅 費 額		鐵 道 賃 船 賃	
車馬賃 ニ付	宿泊料 ニ付	日 當 ニ付	二 等 客 運 賃 但 シ 運 賃 ノ 等 級 ヲ 二 階 級 ニ 區 分 ス ル モ ノ ニ 在 リ ハ テ 上 級 ノ 運 賃 、 其 ノ 等 級 ヲ 設 ケ サル モ ノ ニ 在 リ テ ハ 其 ノ 乘 車 又 ハ 乘 船 ニ 要 ス ル 運 賃
一里	一夜	三 圓	
七十五錢	五圓五十錢		

備考

鐵道賃船賃ニハ通行税、船賃、棧橋賃及普通急行料金ヲ含ム但シ急行料金ハ鐵道五十哩未滿水路五十哩未滿ノ旅行及急行料金ヲ徴セサル旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

租税ノ減免、徴收猶豫

○支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租税ノ減免、徴收猶豫等ニ關スル法律 (昭和十二年九月十三日法律第九十四號)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第五十六號(1)

第一條 政府ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十二年以降ノ分ノ第三種所得稅、地租及營業收益稅ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ輕減又ハ免除スルコトヲ得

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十五年以降ノ分ノ所得稅法及營業稅ニ付亦前項ニ同ジ(1)

第二條 政府ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ昭和十三年以降ノ分ノ第三種所得稅及營業收益稅ニ付命令ヲ以テ課稅標準ノ決定ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ納付スル昭和十五年以降ノ分ノ所得稅及營業稅ニ付亦前

租税ノ減免、徴收猶豫 支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租税ノ減免、徴收猶豫等ニ關スル法律

車馬費	五圓五十錢	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	
宿費	一圓	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
食費	一圓	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
衣費	一圓	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
醫藥費	一圓	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
其他	一圓	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

昭和十五年三月二十九日法律第五十六號(1)

項ニ同ジシ
 第三條 政府ハ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ノ本法施行後ニ於テ納付スヘキ租税ニ付命令
 ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得
 第四條 前三條ノ規定ハ同居ノ戸主又ハ家族中ニ支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬アル者ノ租
 税ニ付之ヲ準用ス
 第五條 第一條又ハ前條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル租税ハ法令上ノ納税資格要件ニ關シ
 テハ輕減又ハ免除セラレサルモノト看做ス
 前項ノ規定ハ地方税ニシテ支那事變ノ爲從軍シタルニ因リ輕減又ハ免除セラルルモノニ付之ヲ
 準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租税ノ減免

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租税ノ減免、
 徵收猶豫等ニ關スル法律施行方ノ件 (昭和十二年九月十三日大藏省令第四十一號)

改正沿革 昭和十三年七月大藏省令第四十號

第一條 支那事變ノ爲出征シタル軍人及軍屬(以下出征軍人及軍屬ト稱ス)ノ納付スル昭和十二年
 分第三種所得税ニ付テハ俸給及手當ノ所得額ヲ從軍中ノ俸給及手當ヲ算入セザルモノニ依リ其
 ノ所得金額ヲ更訂ス
 前項ノ規定ハ軍人及軍屬ガ所得金額決定後ニ於テ支那事變ノ爲出征シタル場合ノ昭和十三年以
 降ノ分ノ第三種所得税ニ付之ヲ準用ス
 第二條 召集ニ應ジ就職シ支那事變ノ爲從軍シタル軍人(以下應召從軍軍人ト稱ス)ノ納付スル昭
 和十二年分第三種所得税ニ付テハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得金額ヲ更訂ス
 一 所得税法第十四條第一項第五號ノ所得額ヲ從軍中ノ俸給及手當ヲ算入セザルモノニ依リ更
 訂ス
 二 所得金額三千圓(同居ノ戸主及家族ノ所得ヲ合算シタルモノニ依ル)以下ノ者召集ニ因リ田

租税ノ減免、徵收猶豫
 支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租税
 ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律施行方ノ件

畑ノ自作、營業及職業ノ所得額四分ノ一以上ヲ減少シタルトキハ其ノ所得額ヲ更訂ス
前項第二號ノ規定ハ同居ノ戸主又ハ家族中ニ應召從軍軍人アル者ノ納付スル昭和十二年分第三
種所得稅ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ召集ニ應ジ就職シタル軍人カ所得金額決定後ニ於テ支那事變ノ爲從軍シタル場
合ノ昭和十三年以降ノ分ノ第三種所得稅ニ付之ヲ準用ス

第三條 出征軍人及軍屬並ニ應召從軍軍人戰死シタルトキハ第三種所得稅額中戰死ノ日以後ニ納
期ノ終了スル各納期分ノ稅額ハ之ヲ免除ス但シ所得金額三千圓（同居ノ戸主及家族ノ所得ヲ合
算シタル更訂前ノ金額ニ依ル）ヲ超ユル者ニシテ所得額中所得稅法第十四條第一項第三號及第
五號ノ所得額ガ全所得額ノ二分ノ一ヲ超エザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

事變ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因スル死亡ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ戰死ト看做ス但
シ傷痍者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第一條又ハ條二條ノ規定ニ依ル所得金額ノ更訂ヲ受ケントスル者ハ翌年一月三十一日迄
ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ同時ニ所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ノ申請ヲ爲スコトヲ
得

稅務署長ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖モ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル所得金額ノ更訂ヲ爲ス
コトヲ得

第五條 第三條ノ規定ニ依ル所得稅額ノ免除ヲ受ケントスル者ハ納期限前其ノ申請書ヲ所轄稅務
署ニ提出スベシ

稅務署長ハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第三條ノ規定ニ依ル所得稅額ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル更訂ノ結果所得金額千圓（同居ノ戸主及家族ノ所得ヲ合
算シタルモノニ依ル）未滿トナリタルトキハ第三種所得稅ヲ免除ス

第七條 所得稅法第六十四條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ更訂
ヲ受クル所得額ヲ除外シタルモノヲ以テ所得稅法第十四條第一項第五號及第六號ノ所得額ト看
做ス

第八條 應召從軍軍人ノ納付スル田畑ノ地租ニ付テハ召集ニ因リ田畑ノ所得ニ著シキ減少アリト
認めラルル場合ニ限り其ノ年分ノ從軍ノ日以後ニ納期ノ終了スル各納期分ノ地租額二分ノ一ヲ
輕減ス但シ小作ニ付シタル田畑ノ地租ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ同居ノ戸主又ハ家族中ニ應召從軍軍人アル者ノ納付スル田畑ノ地租ニ付之ヲ準用
ス

租稅ノ減免、徵收關係 支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅
ノ減免、徵收關係等ニ關スル法律施行方ノ件

第九條 前條ノ規定ニ依ル地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ納期限前其ノ申請書ヲ土地所在ノ市町村ヲ經由シ所轄稅務署ニ提出スベシ

稅務署長ハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ前條ノ規定ニ依ル地租ノ輕減ヲ爲スコトヲ得

第十條 應召從軍軍人ノ納付スル昭和十二年分營業收益稅ニ付テハ純益金額三千圓以下ノ者ニ限リ召集ニ因リ其ノ純益金額四分ノ一以上ヲ減少シタルトキハ之ヲ更訂ス

前項ノ規定ハ同居ノ戶主又ハ家族中ニ應召從軍軍人アル者ノ納付スル昭和十二年分營業收益稅ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ召集ニ應ジ就職シタル軍人ガ純益金額決定後ニ於テ支那事變ノ爲從軍シタル場合ノ昭和十三年以降ノ分ノ營業收益稅ニ付之ヲ準用ス

第十一條 前條ノ規定ニ依ル純益金額ノ更訂ヲ受ケントスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

稅務署長ハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ前條ノ規定ニ依ル純益金額ノ更訂ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第十條ノ規定ニ依ル更訂ノ結果純益金額四百圓未滿トナリタルトキハ營業收益稅ヲ免除ス

第十三條 應召從軍軍人ノ昭和十三年以降ノ分ノ第三種所得稅ニ付テハ田畑ノ自作、營業又ハ職

業ノ所得ニ限リ豫算ニ依リ其ノ所得金額ヲ算定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ同居ノ戶主又ハ家族中ニ應召從軍軍人アル者ノ昭和十三年以降ノ分ノ第三種所得稅ニ付之ヲ準用ス

第十四條 應召從軍軍人ノ昭和十三年以降ノ分ノ營業收益稅ニ付テハ豫算ニ依リ其ノ純益金額ヲ算定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ同居ノ戶主又ハ家族中ニ應召從軍軍人アル者ノ昭和十三年以降ノ分ノ營業收益稅ニ付之ヲ準用ス

第十五條 稅務署長必要アリト認ムルトキハ出征軍人及軍屬並ニ應召從軍軍人ノ納付スベキ左ノ租稅ニ付六月以内ノ徵收猶豫ヲ爲スコトヲ得

一 第三種所得稅

二 營業收益稅

三 第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅

前項ノ規定ハ同居ノ戶主又ハ家族中ニ應召從軍軍人アル者ノ納付スベキ前項ノ租稅ニ付之ヲ準用ス

附 則

租稅ノ減免、徵收猶豫 支那事變ノ爲從軍シタル軍人及軍屬ニ對スル租稅ノ減免、徵收猶豫等ニ關スル法律施行方ノ件

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○災害被害者ニ對スル租税ノ減免、徴收猶豫等ニ

關スル法律（昭和十四年三月二十九日法律第三十九號）

第一條 政府ハ北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ互リ震災其ノ他ノ被害甚大ナル災害アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅及災害ニ因ル被害物件ニ對シ課セラルベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二條 政府ハ前條ノ災害アリタル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ決定又ハ更訂ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

第三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ第一條ノ災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅ニ關スル申告及申請並ニ納期ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

第四條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ第一條ノ災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條 第一條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル國稅ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス

前項ノ規定ハ第二條ノ規定ニ依リ國稅ノ輕減又ハ免除ヲ爲ス災害ニ因リ輕減又ハ免除セラルル地方稅ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法ハ昭和十三年中ニ生ジタル災害ヨリ之ヲ適用ス

○昭和十三年ノ災害被害者ニ對スル租税ノ減免等ニ

關スル件（昭和十四年四月二十二日勅令第二百二十號）

第一條 昭和十三年六月二十八日ヨリ同月三十日迄及同年七月五日ノ風水害（以下風水害ト稱ス）ニ因リ甚大ナル被害ヲ受ケタル者ノ納付スベキ昭和十三年分第三種所得稅ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス但シ昭和十三年分第三種所得金額（同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依

租稅ノ減免、徴收猶豫、災害被害者ニ對スル租稅ノ減免、徴收猶豫等ニ關スル件

ル以下同ジ)一萬圓以上ノ者ノ納付スベキ第三種所得税ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
昭和十三年分第三種所得金額二千圓以下ナルトキ

所得税額ノ全部

同五千圓以下ナルトキ

所得税額ノ十分ノ五

同五千圓ヲ超ユルトキ

所得税額ノ十分ノ二

第二條 風水害ニ因リ甚大ナル被害ヲ受ケタル者ノ納付スベキ昭和十三年分個人ノ營業收益税ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス但シ昭和十三年分個人ノ純益金額五千圓以上ノ者ノ納付スベキ個人ノ營業收益税ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十三年分個人ノ純益金額二千圓以下ナルトキ

營業收益税額ノ全部

同二千圓ヲ超ユルトキ

營業收益税額ノ十分ノ五

第三條 風水害ニ因ル被害者ノ納付スベキ昭和十三年分ノ第三種所得税、個人ノ營業收益税又ハ個人ノ臨時利得税ニ付所得税法第六十五條、營業收益税法第二十條又ハ臨時利得税法第二十四條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ所得ノ基因タル資産又ハ營業ノ用ニ供スル資産ガ風水害ニ因リ減失又ハ毀損シタル損害ノ見積金額ヲ所得税法第十四條第一項第六號、營業收益税法第六條

第一項及臨時利得税法第十條第一項ニ規定スル必要ノ經費ト看做ス

第四條 所得税法第六十五條ノ規定ニ依リ所得金額ノ更訂ヲ受クル者ニ付テハ第一條ノ規定ヲ適用セズ

營業收益税法第二十條ノ規定ニ依リ純益金額ノ更訂ヲ受クル者ニ付テハ第二條ノ規定ヲ適用セズ

第五條 風水害ニ因リ所得、純益又ハ利益ノ著シク減損スベシト認メラルル者又ハ第三條ノ規定ノ適用ヲ受ケタル者ノ納付スベキ昭和十四年分ノ第三種所得税、個人ノ營業收益税及個人ノ臨時利得税ニ付テハ所得税法第十四條第一項第六號ノ所得、營業收益税法第六條ノ純益及臨時利得税法第十條ノ利益ハ豫算ヲ以テ之ヲ算定ス

第六條 本令ニ定ムルモノノ外本令ノ適用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○昭和十四年勅令第二百二十號（昭和十三年ノ災害被害者ニ對スル租税ノ減免等ニ關スル件）施行方ノ件

（昭和十四年四月二十二日大藏省令第十六號）

第一條 昭和十四年勅令第二百二十號第一條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ甚大ナル被害ヲ受ケタル者ハ自己（同居ノ戸主又ハ家族ヲ含ム）ノ所有ニ係ル其ノ住宅又ハ家財ニ付其ノ過半ヲ減失又ハ毀損シタル者トス

第二條 昭和十四年勅令第二百二十號第二條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ甚大ナル被害ヲ受ケタル者ハ營業ノ用ニ供スル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械及器具又ハ商品及原料品等ニ付其ノ過半ヲ減失又ハ毀損シタル者トス

第三條 昭和十四年勅令第二百二十號第三條ニ規定スル所得ノ基因タル資産ハ所得ノ基因タル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等トシ營業ノ用ニ供スル資産ハ營業ノ用ニ供スル自己所有ノ家屋其ノ他ノ築造物、船舶、機械、器具等トス

第四條 昭和十四年勅令第二百二十號第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ所得税又ハ營業收益税ノ輕減又ハ免除ヲ受ケントスル者ハ被害ノ狀況ヲ記載シタル申請書ヲ昭和十四年四月三十日迄ニ所轄稅務署ニ提出スベシ

第五條 昭和十四年勅令第二百二十號第三條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ昭和十四年四月三十日迄ニ其ノ官所轄稅務署ニ申請スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○外國船舶ノ所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税免除ニ關スル件（大正十三年七月十八日法律第六號）

改正 昭和十五年三月二十九日法律第五十七號

日本ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得及純益ニ付所得税又ハ所得ニ對スル法人税及營業税ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所得及純益ニ付同様ノ免除ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

○外國船舶ノ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅免除ニ關スル件 (昭和十五年四月一日大藏省令第二十號)

大正十三年法律第六號(外國船舶ノ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅免除ニ關スル件)施行方ノ件

第一條 「アラスカ」布哇及「ヴァージンアイランド」ヲ含ム) 及「丁抹國」(「フェロー群島」及「グリーンランド」ヲ含ム) ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付テハ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第二條 「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國ニ住所ヲ有スル英國臣民ハ同王國法律ニ依リ設立セラレ且同王國ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ對シテハ同王國ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第三條 「カナダ」ニ住所ヲ有スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ「カナダ」又ハ外國(日本船舶ノ所得又ハ純益ニ付課稅免除ヲ爲ス外國) ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第四條 佛蘭西本國ニ住所ヲ有スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ佛蘭西本國ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第五條 諾威國(「スピッツベルゲン」、「ビヨルン」島、「ヤン、マイン」、「ブーヴェート」島及「ピター、ファースト」島ヲ含ム) ニ住所ヲ有スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ諾威國ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第六條 和蘭國(蘭領印度、「スリナム」、「キヌラサオ」、「ボネール」、「アリユバ」、蘭領「シント、マルティン」、「シント、ユースタティユス」及「サバ」ヲ含ム) ニ住所ヲ有スル和蘭國人又ハ和蘭國ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ對シテハ和蘭國ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第七條 「ブラジル」合衆國ニ住所ヲ有スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ「ブラジル」合衆國ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

第八條 獨逸國ニ住所ヲ有スル獨逸國人又ハ獨逸國ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ對シテハ獨逸國ニ船籍ヲ有スル船舶ノ所得又ハ純益ニ付所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

附則

獨逸ノ漁業、蠶收蠶繅

外國船舶ノ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅免除ニ關スル件

本令ハ昭和十五年法律第五十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和四年大藏省令第十七號ハ之ヲ廢止ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ營業收益稅及個人ノ昭和十四年
分以前ノ營業收益稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ
所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、勤勞所得、山林ノ所
得及乙種ノ退職所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

共通法令

○所得稅法人稅内外地關涉法 (昭和十五年三月二十九日法律第五十五號)

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ
所得稅法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、勤勞所得、山林ノ所
得及乙種ノ退職所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

第二條 朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人、此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有ス
ル個人(關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ヲ除ク)又ハ此等ノ地域ニ本店若ハ主
タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ配當利子所得ニ付テハ同法第二十
二條第一項ノ規定ニ拘ラズ同法第二十一條第一項又ハ第二項ニ規定スル稅率ニ依リ分類所得稅
ヲ賦課ス關東州ニ住所ヲ有シ若ハ一年以上居所ヲ有スル個人又ハ關東州ニ本店若ハ主タル事務
所ヲ有スル法人ガ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利
息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付亦同シ

第三條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該

當ヌルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

一 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ

課スル公債、社債、朝鮮金融債券又ハ預金ノ利子及合同運用信託ノ利益

二 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ配當

稅ヲ課シ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ普通配當稅ヲ課スルモノ

三 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ

課スル一時恩給及退職給與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第四條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定ス

ル不動産所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル資産ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所

得ニ付テハ同法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ八ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

前項ニ規定スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ事業所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於

ケル營業ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同法第二十

二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

一 所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除前ノ事業所得ノ金額ガ千圓ヲ超ユルトキ

百分ノ七

百分ノ四・五

二 前號ノ金額ガ千圓以下ナルトキ

所得稅法第二十一條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第一項ニ規定スル個人ノ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配中ニ朝鮮又ハ樺

太ニ於ケル法令ニ依リ資本利子稅ヲ課スルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ所得稅法第

二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ六ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

第五條 信託會社ガ其ノ引受ケタル合同運用信託ノ信託財產ニ付朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ

南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅ハ各之ヲ所

得稅法ニ依リ納付シタル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ト看做シ同法第二十三條ノ規

定ヲ適用ス

第六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ

所得稅法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル綜合所得稅

ヲ課セズ

第七條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺

太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ命令ヲ以テ

定ムル合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得税ヲ課スルモノハ所得税法第三十條第一項第三號ノ規定ニ拘ラズ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ算出ス

第八條 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得ニ付テハ所得税法第十一條第一項第七號及第二十九條第一號ノ規定ヲ適用セズ

第九條 配當利子特別税法第十三條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利益配當税若ハ公債及社債利子税ヲ課セラレ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當税ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得税ヲ課スル場合ニ付之ヲ準用ス
外貨債特別税法第十八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別税ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得税ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第一號ノ所得ニ付テハ同法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ三ノ税率ニ依リ法人税ヲ賦課ス

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第二號ノ所得及同條第三號ノ資本ニ付テハ法人税法ニ依ル法人税ヲ課セズ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人税法第三條第二號ノ所得ニ付亦同シ

第十一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島又ハ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ所得及資本並ニ清算所得ニ付法人税ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ノ所得及資本ニ付テハ法人税法第十六條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル第一種ノ所得ニ對スル所得税額及法人資本税額ノ合計額（南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ニ在リテハ第一種ノ所得ニ對スル所得税額ノミニ依ル）ニ相當スル金額ヲ以テ法人税ノ税額トス

第十二條 法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於

ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ法人稅ト看做シ法人稅法第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 法人ノ所有スル國債ノ利子ガ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ公債及社債利子稅ヲ課セラルルモノナルトキハ當該公債及社債利子稅ヲ配當利子特別稅ト看做シ法人稅法第十三條ノ規定ヲ適用ス

第十四條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ所得中ニ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ法人稅法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ法人稅ヲ賦課ス

第十五條 法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅、臺灣ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當稅並ニ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル普通配當稅ハ之ヲ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅ト看做シ法人稅法第十六條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅及法人稅法ニ依ル法人稅ヲ免除ス

第十七條 前條ノ規定ニ該當スル事業ガ製鐵事業法ニ依リ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅ノ免除ヲ受タルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ相當スルモノナルトキハ之ヲ所得稅法施行地ニ在ル製鐵事業又ハ法人稅法施行地ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵事業法第七條第三項（第十條、第十一條第二項及第四十三條ノ二第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ金額又ハ製鐵事業法第四十二條ノ規定ニ依リ適用セラルル製鐵業獎勵法第三條第三項ノ金額ヲ計算ス

前項ノ規定ハ輕金屬製造事業法、航空機製造事業法、人造石油製造事業法其ノ他ノ法律ニ依リ所得ニ對スル法人稅ヲ免除スル事業ノ一部ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在ル場合ニ於テ各其ノ法律ノ規定スル所ニ依リ當該事業ヨリ生ズル所得中一定金額ヲ超過スル部分ニ對シ法人稅ヲ免除セザルトキニ於ケル其ノ超過額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

附 則

第十八條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 大正九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十一條 法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得税並ニ本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得税ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十二條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及所得税法第二十一條第二項ニ規定スル預金ノ利子並ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内利子又ハ利益ノ支拂ヲ受クル者ノ申請ニ依リ利子又ハ利益支拂ノ際其ノ利子金額又ハ利益金額

ノ課税標準トシ百分ノ十五ノ税率ニ依リ綜合所得税ヲ賦課スルコトヲ得
所得税法第六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 所得税法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ利子又ハ利益ノ支拂ノ際第三種ノ所得トシテ所得税ヲ課シタル

モノニ付テハ當分ノ内所得税法ニ依ル綜合所得税ヲ課セズ

○所得税法人税内外地關涉法施行規則 (昭和十五年三月三十一日勅令第百五十八號)

第一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得税法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得税法第十條ニ規定スル不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得並ニ同法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ左ニ掲ゲル場合ヲ除クノ外所得税法人税内外地關涉法第一條又ハ第六條ノ規定ニ依リ分類所得税及綜合所得税ヲ課セズ

- 一 所得税法施行地ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ移轉シタルトキ
- 二 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル者各當該地ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前所得税法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ
- 三 所得税法施行地、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付二號ニ準ズベキ事由ノ生ジタルトキ

朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ勤勞所得ニ付テハ所得稅法人稅内外地關涉法第一條ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

第二條 所得稅法人稅内外地關涉法第四條第二項ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ賦課スル場合ニ於テ所得稅法施行地ヨリ生ズル事業所得アルトキハ所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ所得稅法施行地ヨリ生ズル事業所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ所得稅法人稅内外地關涉法第四條第二項ニ規定スル所得ニ及ブ

第三條 所得稅法人稅内外地關涉法第七條ノ規定ニ依リ前年中ノ收入金額ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ計算スベキ合同運用信託ノ利益ハ朝鮮所得稅令第五條ニ規定スル合同運用信託ノ利益トス

第四條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ所得稅法人稅内外地關涉法第十二條ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第五條 所得稅法人稅内外地關涉法第十六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ事業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其

ノ他ノ法令ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

所得稅法施行規則第四十三條及法人稅法施行規則第八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル申請ニ付之ヲ準用ス

第六條 所得稅法人稅内外地關涉法第十六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ期間ハ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ當該製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付定メラレタル所得稅又ハ法人稅ノ免除期間ニ依ル

所得稅法施行規則第三條及法人稅法施行規則第七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ期間ニ付之ヲ準用ス

附 則

第七條 本令ハ所得稅法人稅内外地關涉法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅並ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事

業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本令ヲ適用ス

第九條 所得稅法人稅内外地關涉法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ支拂ノ際綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得ベキ合同運用信託ノ利益ハ所得稅法施行規則第三十三條ニ規定スルモノニ限ル

第十條 所得稅法施行規則第百十四條及第百十五條ノ規定ハ所得稅法人稅内外地關涉法第二十二條ノ規定ニ依ル綜合所得稅ノ賦課徵收ニ付之ヲ準用ス

○樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件 (明治四十年三月二十七日法律第二十一號)

- | | |
|---------------|--------------|
| 改正 大正九年法律第十三號 | 大正十年法律第七號 |
| 大正十一年法律第二十一號 | 大正十二年法律第二十一號 |
| 昭和二年法律第十號 | 昭和十年法律第二十號 |
| 昭和十二年法律第三十一號 | 昭和十二年法律第六十六號 |
| 昭和十三年法律第五十一號 | 昭和十四年法律第四十八號 |
| 昭和十五年法律第二十六號 | |

第一條 樺太ニ於テハ左ニ掲クル租稅ヲ賦課徵收ス

- 一 市街宅地稅
- 二 所得稅
- 三 營業收益稅
- 四 酒造稅
- 五 漁業稅
- 六 臨時利得稅
- 七 相續稅
- 八 資本利子稅
- 九 外貨債特別稅
- 十 法人資本稅
- 十一 北支事件特別稅
- 十二 利益配當稅
- 十三 公債及社債利子稅
- 十四 通行稅

共通法令 樺太ニ於ケル租稅ニ關スル件

- 十五 入場稅
 - 十六 特別入場稅
 - 十七 物品稅
 - 十八 建築稅
 - 十九 遊興飲食稅
 - 二十 特別法人稅
- 前項租稅ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 本法ニ規定スルモノノ外租稅ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附 則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○所得稅法施行規則等ノ規定ニ依ル檢查章書式ノ件

(昭和十五年四月一日大藏省令第十號)

所得稅法施行規則第二百五條、法人稅法施行規則第二十一條、特別法人稅法施行規則第十四條、外貨債特別稅法施行規則第三條、建築稅法施行規則第十一條、有價證券移轉稅法施行規則第九條、通行稅法施行規則第十四條及營業稅法施行規則第二十九條ノ規定ニ依ル檢查章ノ書式左ノ通定ム

書式(用紙厚質白紙(縦二寸五分))

<p>第 何 號</p> <p>表 檢 査 章</p> <div style="border: 1px solid black; width: 60px; margin: 0 auto; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">稅 務 署 印</p> </div>	<p>裏</p> <p>何 稅 務 署</p> <p>官 氏 名</p>
---	--------------------------------------

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年大藏省令第八號ハ之ヲ廢止ス

共通法令 所得稅法施行規則等ノ規定ニ依ル檢查章書式ノ件

昭和十五年法律第五十一號、同年法律第五十三號及同年法律第五十號ノ附則ノ規定ニ依リ舊法ニ依ル場合ニ於ケル營業收益稅法施行規則第二十四條、法人資本稅法施行規則第七條並ニ支那事變特別稅法施行規則第六十八條第一項及第二項ノ規定ニ依ル檢査章ノ書式ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○國庫出納金端數計算法 (大正五年一月二十九日法律第二號)

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條 分割シテ收入シ又ハ支拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租

ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附 則

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

○國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件 (大正五年三月三十一日大藏省令第二號)

改正 大正 七年省令第十一號 (1) 大正十五年省令第二十六號 (2)

昭和 十年省令第六號 (3) 昭和十二年省令第九號 (4)

昭和十四年省令第十號 (5) 昭和十五年四月省令第二十八號 (6)

共進法令

國庫出納金端數計算法 國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課税標準額計算上圖位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅ヲ指定スル左ノ如シ

- 一 分類所得稅(甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅ヲ除ク)(6)
- 二 綜合所得稅(所得稅法第六條第一項ニ規定スル綜合所得稅ヲ除ク)(6)
- 三 法人稅(6)
- 四 特別法人稅(6)
- 五 外貨債特別稅(4)
- 六 相續稅
- 七 建築稅(5)
- 八 取引所特別稅(6)
- 九 取引稅
- 十 臨時利得稅(3)
- 十一 營業稅(6)
- 十二 第一種所得稅
- 十三 第三種所得稅

- 十四 營業收益稅(2)
- 十五 乙種資本利子稅(2)
- 十六 法人資本稅(4)
- 十七 鑛產稅
- 十八 特別鑛產稅(4)
- 十九 取引所營業稅

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(3)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(4)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(5)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則(6)

共通法令

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課税標準額計算上圖位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

廢 止 法 令

支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法

○支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十號)

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得稅、營業收益稅、法人資本稅及臨時利得稅、法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及特別鑛產稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ爲シタル賣買取引ニ基ク賣買手數料收入金額ニ對スル取引所營業稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ竣成シタル家屋ノ建築稅並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅、資本利子稅、酒類ニ對スル造石稅及出港稅、麥酒稅、酒精及酒精含有飲料ニ對スル造石稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引

稅、印紙稅、利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、遊興飲食稅及個人ノ臨時利得稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

臨時租稅增徴法第十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十五年一月一日以後ニ隱居ニ因リ開始シタル家督相續又ハ同日以後ニ爲シタル相續稅法第二十三條第一項ニ規定スル贈與ニ付テハ之ヲ適用セズ

昭和十五年一月一日以後昭和十五年三月三十一日迄ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及特別鑛產稅ハ昭和十五年六月中ニ之ヲ徵收ス

○支那事變特別稅法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第百五十四號)

附則

本令ハ昭和十五年法律第五十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ竣成シタル家屋ノ建築稅並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第三種ノ所得ニ對スル所得稅、利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅及遊興飲食稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

營業 收益 稅

○營業收益稅法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十一號)

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ營業收益稅及個人ノ昭和十四年分以前ノ營業收益稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

○營業收益稅法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第百五十五號)

附則

本令ハ昭和十五年法律第五十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ營業收益稅及個人ノ昭和十四年分以前ノ營業收益稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

資 本 利 子 稅

○資本利子稅法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十二號)

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徴收シ若ハ徴收スベカリシ資本利子税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

○資本利子税法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第百五十六號)

附則

本令ハ昭和十五年法律第五十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徴收シ若ハ徴收スベカリシ資本利子税ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

法 人 資 本 税

○法人資本税法ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月二十九日法律第五十三號)

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ法人資本税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

○法人資本税法施行規則ハ之ヲ廢止ス(昭和十五年三月三十一日勅令第百五十七號)

附則

本令ハ昭和十五年法律第五十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ法人資本税ニ關シテハ仍舊令ニ依ル

間
接
稅

新稅法(間接稅)目次

(明—明治・大—大正・昭—昭和・法—法律・勅—勅令・省—大廳省令ヲ示ス)

酒 稅

○酒稅法	昭一五、三	法令	三五	頁
第一章 總則	一			
第二章 製造及販賣ノ免許	四			
第三章 酒稅ノ賦課徵收	七			
第一節 酒稅ノ種別及課率	七			
第二節 酒類造石稅	一〇			
第三節 酒類庫出稅	一三			
第四節 原料用及輸出向酒類	一五			
第五節 納稅擔保	一七			

第四章 雜則……………一八

第五章 罰則……………二二

附則……………二五

○酒税法施行規則……………昭一五、三 勅 一四五……………三

第一章 總則……………三二

第二章 製造及販賣ノ免許……………三三

第三章 酒税ノ賦課徵收……………三五

第一節 酒類造石税……………三五

第二節 酒類庫出税……………三七

第三節 原料用及輸出向酒類……………三九

第四節 納税擔保……………四三

第四章 雜則……………四七

附則……………五七

○酒造税法施行規則第八十一條第二項ノ

規定ニ依リ沖繩縣ヨリ移出スル酒類ニ

付交付スヘキ船積免狀様式ノ件……………昭一五、四 省 一三、…、五九

○樺太酒類出港税法……………大元、八 法 一……………六二

○樺太酒類出港税法施行規則……………大元、八 勅 九……………六三

○南洋群島ニ於テ出港税ヲ課セラレタル

酒精酒類其ノ他酒精含有飲料ノ出港税

免除ニ關スル件……………大元、五 勅 三一〇……………六四

清涼飲料税

○清涼飲料税法……………大元、三 法 一六……………六七

○清涼飲料税法施行規則……………大元、三 勅 三三……………七三

砂糖消費税

○砂糖消費税法……………明三四、三 法 一三…八

○砂糖消費税法施行規則……………明三四、八 勅 一六九…三

○砂糖消費税織物消費税等ノ徴收ニ關スル法律……………明四四、三 法 四五…二三

○砂糖消費税織物消費税等ノ徴收ニ關スル件……………明四四、六 勅 一八六…二四

織物消費税

○織物消費税法……………明三四、三 法 七…二九

○織物消費税法施行規則……………明三四、三 勅 一八五…二八

揮發油税

○揮發油税法……………昭一二、三 法 一六…二四

○揮發油税法施行規則……………昭一二、三 勅 五六…二七

遊興飲食税

○遊興飲食税法……………昭一五、三 法 四一…二五

○遊興飲食税法施行規則……………昭一五、三 勅 一五一…二九

取引所税

○取引所税法……………大三、三 法 二三…二五

○取引所税法施行規則……………大三、七 省 一三…二七

物品税

○物品税法……………昭一五、三 法 四〇…二七

○物品税法施行規則……………昭一五、三 勅 一五〇…二九

○物品税法施行規則ニ依ルラヂオ聴取機指定ノ件……………昭一五、四 省 八九…三二

印紙稅

○印紙稅法……………明三二、三 法 五四…三三

骨牌稅

○骨牌稅法……………明三五、四 法 四四…三五

○骨牌稅法施行規則……………明三五、五 勅 一五四…二四〇

狩獵免許稅

○狩獵法(抄)……………大七、四 法 三二…二四五

○狩獵法施行規則(抄)……………大八、八 農商省令二八…二四七

兌換銀行券發行稅及日本銀行納付金

○兌換銀行券條例……………明一七、五 太政官一八…二四九

○兌換銀行券發行稅ノ納期等ニ關スル件……………昭七、九 省 二一…二五〇

○日本銀行納付金法……………昭七、六 法 一〇…二五一

○日本銀行條例(抄錄)……………明一五、六 太政官三二…二五二

○兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル件……………昭一三、四 法 六四…二五三

内外地移出入物品關係

○内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル法律……………大九、八 法 五一…二五五

○大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件……………大九、八 勅 三二…二五七

○朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律……………大九、八 法 五二…二五八

○大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件……………大九、八 勅 三一…二五九

○大正 間接國稅犯則者處分ニ關スル件

○間接國稅犯則者處分法……………明三三、三 法 八七…二六一

○間接國稅犯則者處分法施行規則……………明三三、三 勅 五二…二六六

○間接國稅犯則者處分法ニ依ル收稅官吏ノ證票様式……………明三三、三 省 五…二七一

○間接國稅犯則者處分法施行心得方……………明三三、三 大藏訓令八…二七四

國債ノ擔保、其他

○政府ニ對スル保證金其他ノ擔保ニ供シタル國債ノ買入銷却ニ關スル件……………明四二、三 法 九…二七五

○明治四十二年法律第九號但書ノ規定ニ依ル命令ノ件……………昭一四、六 省 二五…二七五

○政府ニ納ムヘキ保證金其ノ他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件……………明四一、一二勅 二八七…二七五

○明治四十一年勅令第二百八十七號第二項ノ規定ニヨリ國債ノ發行價格ニ加算スヘキ金額ニ關スル件……………昭一四、六 省 二六…二七七

○本邦内ニ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律……………昭一三、六 法 八七…二七七

○昭和十三年法律第八十七號ノ適用ヲ受クル外國債ノ條件ニ關スル件……………昭一三、六 勅 三八九…二七九

○支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止ノ件……………昭一五、三 法 五〇…二八〇

○支那事變特別稅法施行規則廢止ノ件……………昭一五、三 勅 一五四…二八二

○明治三十八年大藏省令第十一號等廢止ノ件……………昭一五、四 省 一四…二八二

○酒類ニハ本法ニ依リ酒税ヲ課ス
 ○酒類ヲ分テテ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、果實酒及雜酒トス
 ○米、米麴及水ヲ原料トシテ釀酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ
 ○本法ニ於テアルコール分トハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比
 ○重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ
 ○受クルアルコールヲ除ク
 ○本法ニ於テアルコールノ分トハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比
 ○重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ
 ○酒類ヲ分テテ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、果實酒及雜酒トス
 ○米、米麴及水ヲ原料トシテ釀酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

酒 税

○酒 税 法 (昭和十五年三月二十九日法律第三十五號)

第一章 總則

- 第一條 酒類ニハ本法ニ依リ酒税ヲ課ス
- 第二條 本法ニ於テ酒類トハアルコール分一度以上ノ飲料ヲ謂フ但シアルコール專賣法ノ適用ヲ受クルアルコールヲ除ク
- 本法ニ於テアルコール分トハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比
- 重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ
- 第三條 酒類ヲ分テテ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、果實酒及雜酒トス
- 第四條 本法ニ於テ清酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
 - 一 米、米麴及水ヲ原料トシテ釀酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

二 米、水及命令ヲ以テ定ムル物品ニシテ其ノ重量ガ米(麴米ヲ含ム)ノ重量ヲ超エザルモノヲ原料トシテ醱酵セシメ之ヲ濾過シタルモノ

清酒ヲ清酒粕ニテ粕濾シタルモノハ之ヲ清酒ト看做ス

第五條 本法ニ於テ合成清酒トハアルコール醱酵又ハ清酒ト他ノ物品トヲ混和シテ製造シタル酒類ニシテ其ノ香味、色澤其ノ他ノ性状ガ清酒ニ類似スルモノヲ謂フ

第六條 本法於ニ於テ濁酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 米、米麴及水ヲ原料トシテ醱酵セシメ之ヲ濾過セザルモノ
二 米、水及命令ヲ以テ定ムル物品ヲ原料トシテ醱酵セシメ之ヲ濾過セザルモノ

第七條 本法ニ於テ白酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 米又ハ米麴ト清酒、濁酒、味淋、燒酎又ハアルコールトヲ混和シテ碾碎シタルモノ
二 前號ニ掲グル原料ノ外水ヲ混和シテ碾碎シタルモノ

第八條 本法ニ於テ味淋トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 米及米麴ト燒酎又ハアルコールトヲ混和シテ濾過シタルモノ
二 前號ニ掲グル原料ノ外味淋、味淋粕又ハ水ヲ混和シテ濾過シタルモノ
味淋ヲ味淋粕ニテ粕濾シタルモノハ之ヲ味淋ト看做ス

第九條 本法ニ於テ燒酎トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 清酒粕、合成清酒粕、味淋粕、清酒、合成清酒、濁酒、白酒又ハ味淋ヲ蒸餾シタルモノ

二 命令ヲ以テ定ムル物品及水ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノヲ蒸餾シタルモノ
燒酎ヲ蒸餾シタルモノハ之ヲ燒酎ト看做ス

第十條 本法ニ於テ麥酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 麥芽、ホップ及水ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ
二 麥芽、水及命令ヲ以テ定ムル物品ニシテ其ノ重量ガ麥芽ノ重量ノ十分ノ五ヲ超エザルモノ
ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ

第十一條 本法ニ於テ果實酒トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 果實ヲ原料トシテ醱酵セシメタルモノ
二 果實ニ命令ノ定ムル所ニ依リ糖類ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

三 果實又ハ果實ニ命令ノ定ムル所ニ依リ糖類ヲ加ヘタルモノニ水又ハ命令ヲ以テ定ムル除酸劑ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ

第十二條 本法ニ於テ雜酒トハ清酒、合成清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒及果實酒以外ノ酒類ヲ謂フ

第十三條 本法ニ於テ保稅地域トハ關稅法ニ定ムル保地稅域ヲ謂フ

第二章 製造及販賣ノ免許

第十四條 酒類ヲ製造セントスル者ハ製造スベキ酒類ノ各種類ニ付製造場一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受クベシ

第十五條 毎酒造年度ニ於テ清酒及合成清酒ハ各三百石、濁酒ハ百石、白酒、味淋及燒酎ハ各五十石、麥酒ハ一萬石、雜酒ハ十石以上ヲ製造スル者ニ非ザレバ製造ノ免許ヲ與ヘズ但シ清酒ノ製造免許ヲ受ケタル者ニハ濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ニ對スル制限ヲ、燒酎ノ製造免許ヲ受ケタル者ニハ白酒又ハ味淋ニ對スル制限ヲ適用セズ

毎酒造年度ニ於テ清酒及合成清酒ヲ合計シテ三百石以上製造スル者ニハ前項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

試驗ノ爲ニ製造スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ規定ニ拘ラズ製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

酒造年度トハ其ノ年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ノ期間ヲ謂フ

第十六條 酒母、醪又ハ麹ヲ製造セントスル者ハ製造場一個所毎ニ政府ノ免許ヲ受クベシ但シ酒類製造ノ免許又ハアルコール專賣法ニ依ルアルコール製造ノ特許、許可若ハ委託ヲ受ケ酒類又

ハアルコールノ製造場ニ於テ製造スル者及自己又ハ其ノ家族ノ用ニミ供スル麹ヲ製造スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 酒類ノ販賣業(販賣ノ仲介業ヲ含ム以下同ジ)ヲ爲サントスル者ハ政府ノ免許ヲ受クベシ但シ酒類製造者ガ其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業及命令ヲ以テ定ムル販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ免許ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一個所毎ニ之ヲ受クベシ

第十八條 第十四條、第十六條及前條ノ規定ニ依ル免許ノ申請アリタル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ其ノ免許ヲ與ヘザルコトヲ得

- 一 取締上不適當ト認ムル場所ニ製造場又ハ販賣場ヲ設ケントスルトキ
 - 二 本法ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケタル者ガ免許ヲ申請シタルトキ
 - 三 第二十二條第一項第四號ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ガ免許ヲ申請シタルトキ
 - 四 資力不充分ト認メラルル者ガ酒類ノ製造ノ免許ヲ申請シタルトキ
 - 五 酒稅保全ノ爲ニスル製造又ハ販賣ノ統制上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムルトキ
 - 六 前各號ノ外取締上不適當ト認ムル者ガ免許ヲ申請シタルトキ
- 第十九條 酒類、酒母、醪若ハ麹ノ製造又ハ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造場又ハ販

賣場ヲ移轉セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第二十條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ申請スベシ

シ

酒母、醱若ハ麹ノ製造又ハ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ申告スベシ

第二十一條 酒類、酒母、醱若ハ麹ノ製造業又ハ酒類販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ製造又ハ販賣業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十二條 酒類製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ酒類製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得

- 一 本法ニ違反シ處罰又ハ處分セラレタルトキ
 - 二 三年以上引續キ酒類ノ製造ヲ爲サザルトキ
 - 三 三酒造年度以上引續キ其ノ製造石數ガ第十五條第一項又ハ第二項ノ制限石數ニ達セザリシトキ
 - 四 第四十三條ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ其ノ提供ヲ爲サザルトキ
- 前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ製成其ノ他必要ノ行爲

ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ仍本法ヲ適用ス

第二十三條 酒類製造者ニハ其ノ製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テモ酒稅ヲ完納スルニ至ル迄ノ間仍本法ヲ適用ス

第二十四條 第二十二條第一項第一號及第二號並ニ第二項ノ規定ハ酒母、醱又ハ麹ノ製造者ニ之ヲ準用ス

第二十五條 酒類販賣業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ酒類販賣業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

- 一 本法ニ違反シ處罰又ハ處分セラレタルトキ
 - 二 二年以上引續キ酒類ノ販賣ヲ爲サザルトキ
- 第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ニ付之ヲ準用ス

第三章 酒稅ノ賦課徵收

第一節 酒稅ノ種別及課率

第二十六條 酒稅ハ之ヲ酒類造石稅及酒類庫出稅ノ二種トス

第二十七條 各酒類ニ課スベキ酒稅及其ノ稅率左ノ如シ

- 一 清酒及白酒 造石稅 一石ニ付 四十五圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコール分
二十度ヲ超ユル一度毎ニ三圓八十錢ヲ加フ

第二十六種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

二 合成清酒 造石稅 一石ニ付 四十八圓

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコール分
二十度ヲ超ユル一度毎ニ四圓ヲ加フ

第三種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

三 濁酒 造石稅 一石ニ付 四十五圓

第四種 庫出稅 一石ニ付 四十五圓

アルコール分二十八度ヲ超ユルトキハアルコール
分二十八度ヲ超ユル一度毎ニ二圓七十錢ヲ加フ

第五種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

五 燒酎 造石稅 一石ニ付 四十八圓

第六種 庫出稅 一石ニ付 四十八圓

甲 連續式蒸餾機ニ依リ製造シタルモノ

アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコール分
三十度ヲ超ユル一度毎ニ二圓七十錢ヲ加フ

第七種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

乙 其ノ他ノモノ 造石稅 一石ニ付 四十五圓

第八種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコール分
三十度ヲ超ユル一度毎ニ二圓六十錢ヲ加フ

第九種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

アルコール分四十五度ヲ超ユルモノ
百五十五圓ニアルコール分四十五度ヲ超ユル一度
毎ニ四圓ヲ加ヘタル金額

第十種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

六 麥酒 庫出稅 一石ニ付 五十九圓三十錢

第十一種 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

七 果實酒 庫出稅 一石ニ付 二十五圓

酒稅 酒稅法 酒稅ノ賦課徵收 酒稅ノ種別及課率

八 雜酒

造石税

一石ニ付

五十圓

六 麥酒

造石税

一石ニ付

アルコール分二十度ヲ超ユルトキハアルコール分

二十度ヲ超ユル一度毎ニ四圓ヲ加フ

庫出税

一石ニ付

三十圓

第二節 酒類造石税

第二十八條

酒類造石税ハ酒類ノ製造石數ニ應ジ其ノ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ命令ノ定ムル所

ニ依リ清酒ニ付テハ製造石數ノ百分ノ七以內、味淋ニ付テハ製造石數ノ百分ノ三以內、燒酎ニ付テハ製造石數ノ百分ノ二以內ノ滓引減量又ハ貯藏減量ヲ製造石數ヨリ控除スルコトヲ得

第四條第二項又ハ第八條第二項ノ酒類ニ付テハ粕瀉ニ依リ増加シタル分ノミヲ以テ前項ノ製造石數ト看做ス但シ粕瀉前ノ酒類ノ石數ヲ確知スルコト能ハザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 酒類(麥酒及果實酒ヲ除ク)ノ製造石數及アルコール分ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製成ノ時之ヲ査定ス

犯則其ノ他ノ事由ニ因リ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ其ノ製造石數又ハアルコール分ヲ査定ス

麥酒及果實酒ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ製成ノ時其ノ製造石數ヲ檢定ス

第三十條 酒類造石税ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一 清酒

第一期 七月一日ヨリ三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對スル税額ノ四分ノ一

第二期 十月一日ヨリ三十一日限

同上

第三期 翌年二月一日ヨリ末日限

同上及其ノ年五月一日ヨリ九月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對スル税額ノ二分ノ一

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

前納額ノ殘額

二 濁酒、白酒、味淋及燒酎

第一期 七月一日ヨリ三十一日限

前年十月一日ヨリ其ノ年四月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對スル税額ノ二分ノ一

第二期 十月一日ヨリ三十一日限

同上

酒 税 酒 法 酒 税 ノ 賦 課 徵 收 酒 類 造 石 税

第三期 翌年二月一日ヨリ末日限

其ノ年五月一日ヨリ九月三十日迄ニ査定シタル製造石數ニ對スル稅額

三 合成清酒及雜酒

毎月中査定シタル製造石數ニ對スル稅額ヲ翌月末日限

第三十一條 第二十二條第一項ノ規定ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テハ未納ニ屬スル酒類造石稅ノ全部又ハ一部ヲ直ニ徵收スルコトヲ得第四十三條ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ其ノ提供ヲ爲サザルトキ亦同ジ

第三十二條 酒類ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石稅ヲ免除スルコトヲ得但シ製造場外ニ移出シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 亡シタルトキ

二 腐敗其ノ他ノ事由ニ因リ飲用ニ供シ難キ場合ニ於テ政府ノ承認ヲ受ケ酒類トシテ飲用スルコト能ハザル處置ヲ施シ又ハ酒類製造ノ原料ニ供シタルトキ

第三十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケテ製造場ヨリ移出シタル酒類ガ移出先ニ到達前又ハ移出先ニ於テ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石稅額ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ交付スル場合ニ於テ當該酒類ニ付納付スベキ酒類造石稅中未納ニ屬スルモノアルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ稅額ニ相當スル擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得

第三節 酒類庫出稅

第三十三條 酒類庫出稅ハ製造場ヨリ移出シタル酒類ノ石數ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ル酒類ニ付テハ引取リタル石數ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十四條 酒類ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ酒類ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

一 製造場ニ於テ飲用セラレタルトキ

二 酒類製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テ製造場ニ現存スルトキ但シ命令ヲ以テ定ムル場合除ク

合除ク

三 製造場ニ現存スルモノ公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ

第三十五條 酒類(濁酒ヲ除ク)ノ製造者ハ毎月製造場ヨリ移出シタル酒類ノ種類毎ニ石數ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ直ニ其ノ移出シ又ハ移出シタルモノト看做サレタル酒類ニ付申告書ヲ提出スベシ

一 酒類製造ノ免許ヲ取消サレタルトキ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク

二 酒類ガ公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ酒類(清酒ヲ除ク)ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ引取ノ際前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ移出又ハ引取ノ石數ヲ決定ス

第三十六條 酒類庫出稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第三十三條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

前條第一項但書ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ其ノ酒類庫出稅ヲ徵收ス

前項ノ場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ酒類庫出稅ニ付其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月以内其ノ稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十七條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル酒類ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ取引先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ酒類ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ酒類庫出稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類庫出稅ヲ免除スルコトヲ得

政府ハ第一項ノ酒類ニ付必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類庫出稅額ニ相當スル擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得

第三十八條 製造場ヨリ移出シタル酒類ヲ同一製造場ニ戻入シ又ハ酒類ヲ製造場外ヨリ移入シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類ヲ製造場ヨリ移出スルモ更ニ酒類庫出稅ノ徵收ヲ爲サズ但シ前條第一項ニ規定スル政府ノ承認ヲ受ケテ移出先又ハ引取先ニ移入シタル酒類ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四節 原料用及輸出向酒類

第三十九條 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ同一製造場ニ於テ酒類製造ノ原料ニ供スル爲製造シタル酒類ニ付テハ其ノ酒類造石稅ヲ免除ス
前項ノ原料用酒類ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限り其ノ用途ヲ變更スルコトヲ得

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ第三十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケテ製造場ヨリ移出シタル酒類ヲ移出先ニ於テ酒類製造ノ原料ニ供シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石税額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第三十二條第三項ノ規定ハ前項ノ交付金ヲ交付スル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十條 前條第一項ノ原料用酒類ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ直ニ其ノ酒類造石税ヲ徴收ス

一 前條第二項ノ規定ニ依リ其ノ用途ヲ變更シタルトキ

二 酒類製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テ製造場ニ現存スルトキ

三 公賣若ハ競賣セラレタルトキ又ハ破産手續ニ於テ換價セラレタルトキ

第四十一條 政府ノ承認ヲ受ケ酒類ヲ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類造石税ヲ免除シ又ハ其ノ税額ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得

第三十二條第三項ノ規定ハ前項ノ交付金ヲ交付スル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 政府ノ承認ヲ受ケ輸出スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出スル酒類ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類庫出税ヲ免除スルコトヲ得

第三十七條第三項ノ規定ハ前項ノ酒類ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出セラレタルコトノ

證明ナキモノニ付之ヲ準用ス

第一項ノ酒類ハ之ヲ内地、朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ於テ消費シ又ハ此等ノ地域ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ承認ヲ受ケタル酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類庫出税ヲ徴收ス

第三十七條第四項ノ規定ハ第一項ノ酒類庫出税ニ付之ヲ準用ス

第五節 納税擔保

第四十三條 政府ハ酒類製造者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類造石税ニ付擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得但シ酒類製造者政府ノ承認ヲ受ケ納税ノ擔保トシテ酒類造石税額ニ相當スル價額ノ酒類ヲ保存スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 酒類製造者ノ屬スル酒造組合ニ於テ納税ヲ保證シタルトキハ其ノ各組合員モ亦連帶シテ保證ノ義務ヲ負フ

第四十五條 本法ニ依リ擔保ヲ提供シ又ハ納税ノ擔保トシテ酒類ヲ保存シタル場合ニ於テ納税義務者期限内ニ税金ヲ納付セザルトキハ其ノ擔保物タル金錢ヲ直ニ税金ニ充テ、金錢以外ノ擔保物若ハ納税ノ擔保トシテ保存スル酒類ヲ公賣ニ付シテ税金及公賣ノ費用ニ充テ又ハ保證人若ハ

納稅ヲ保證シタル酒造組合ノ組合員ヲシテ税金ヲ納付セシム

第四十六條 前條ノ場合ニ於テ擔保物又ハ納稅ノ擔保トシテ保存スル酒類ノ價額ガ徵收スベキ税金及公費ノ費用ニ充テ仍不足アリト認ムルトキハ納稅義務者ノ他ノ財産ニ就キ滯納處分ヲ行フ

納稅義務者ニ對シ滯納處分ヲ執行シタル場合ニ於テ其ノ財産ノ價額ガ徵收スベキ税金、督促手数料、延滞金及滯納處分費ニ充テ仍不足アリト認ムルトキハ保證人又ハ納稅ヲ保證シタル酒造組合ノ組合員ニ對シ滯納處分ヲ行フ

前項ノ保證人又ハ酒造組合ノ組合員ハ國稅徵收法第三十二條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ滯納者ト看做ス

第四十七條 第三十一條又ハ國稅徵收法第四條ノ一ノ規定ニ依リ酒稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ擔保トシテ酒類ヲ差押フルコトヲ得

第四十八條 酒類製造者ハ第四十三條但書ノ規定ニ依リ納稅ノ擔保トシテ保存スル酒類ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ

第四章 雜則

第四十九條 酒類製造者ハ製造石數ノ査定又ハ檢定前ニ於テ其ノ酒類ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移

出スルコトヲ得ズ

第五十條 製造石數査定後ニ於テ酒類ニ種類ノ異ル酒類又ハ水以外ノ物品ヲ混和シタルトキハ新

ニ酒類ヲ製造シタルモノト看做ス但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ清酒ト合成酒トヲ混和スルトキ

二 命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ酒類保存ノ爲酒類ニ燒酎若ハアルコール又ハ水以

外ノ物品ヲ混和スルトキ

第五十一條 酒母又ハ醪ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ處分

シ又ハ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類製造者ガ酒類製造ノ用ニ

供スル場合又ハ酒母ヲ政府ノ交付シタル酒母讓受許可書ヲ有スル者ニ讓渡ス場合ハ此ノ限ニ在

ラズ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ醪ハ之ヲ濁酒ト看做シ製造者ヨリ直

ニ酒類造石稅ヲ徵收ス但シ政府ノ承認ヲ受ケ之ニ酒類トシテ飲用スルコト能ハザル處置ヲ施シ

タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 政府ハ取締上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類、酒母、醪又ハ麴

ノ製造者ニ對シ製造又ハ貯藏ノ設備又ハ方法ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五十三條 政府ハ酒稅保全上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ酒類、酒母、醪若ハ麵ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ニ對シ製造數量又ハ販賣ノ數量、價格若ハ方法ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五十四條 酒類、酒母、醪若ハ麵ノ製造者又ハ酒類若ハ麵ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第五十五條 酒類、酒母、醪若ハ麵ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第五十六條 酒類、酒母、醪若ハ麵ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ使用スル機械、器具及容器ノ檢定ヲ受クベシ

第五十七條 酒類、酒母、醪若ハ麵ノ製造者又ハ酒類ノ販賣業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事項ニ付政府ノ檢査又ハ承認ヲ受クベシ

第五十八條 收稅官吏ハ酒類、酒母、醪若ハ麵ノ製造者又ハ酒類若ハ麵ノ販賣業者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付檢査ヲ爲シ若ハ取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 製造者ノ所持スル酒類、酒母、醪若ハ麵又ハ販賣業者ノ所持スル酒類若ハ麵

二 酒類、酒母、醪又ハ麵ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 酒類、酒母、醪又ハ麵ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、容器、原料

其ノ他ノ物件

收稅官吏ハ運搬中ノ酒類、酒母、醪又ハ麵ヲ檢査シ又ハ其ノ出所若ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

第五十九條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合又ハ酒造組合中央會ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ若ハ徵收事務ノ補助ヲ爲シ又ハ酒稅保全上必要ナル措置ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ酒造組合又ハ酒造組合中央會ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第五節 罰則

第六十條 免許ヲ受ケズシテ酒類ヲ製造シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ製造ニ係ル酒類竝ニ其ノ機械、器具及容器ハ之ヲ沒收ス

前項ノ酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類造石稅及酒類庫出稅ヲ徵收ス

第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ酒類造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

- 一 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類造石税ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者
- 二 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類造石税ノ免除ヲ得又ハ得ントシタル者
- 三 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類造石税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ酒類造石税ヲ徵收ス

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ酒類庫出税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ガ二

十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

一 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類庫出税ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントシタル者

二 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒類庫出税ノ免除ヲ得又ハ得ントシタル者

前項ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ酒類庫出税ヲ徵收ス

第六十三條 第六十一條ノ罰金ト前條ノ罰金トハ之ヲ併科ス

第六十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十六條ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケメシテ酒母、醗又ハ麹ヲ製造シタル者

二 第十七條ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケメシテ酒類ノ販賣業ヲ爲シタル者

三 第三十五條第一項又ハ第二項ニ規定スル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

四 第三十七條第一項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケテ移出シ又ハ引取りタル酒類ヲ指定ノ場所ニ移入セザル者

五 第三十九條第二項ノ承認ヲ受ケメシテ同條第一項ノ原料用酒類ヲ他ノ用途ニ供シ又ハ之ヲ製造場ヨリ移出シタル者

六 第四十二條第三項ノ承認ヲ受ケメシテ同條第一項ノ規定ニ依リ酒類庫出税ヲ免除セラレタル酒類ヲ内地、朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ於テ消費シ又ハ此等ノ地域ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡シタル者

七 第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ違反シ酒類ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出シタル者

八 第五十一條第一項ノ規定ニ違反シ酒母又ハ醗ヲ處分シ又ハ製造場ヨリ移出シタル者

九 第五十二條又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シタル者

前項第一號ニ該當スル場合ニ於テハ製造ニ係ル酒母、醗又ハ麹並ニ其ノ機械、器具及容器ハ之ヲ沒收ス

第一項第一號及第八號ノ酒母及醗ハ之ヲ濁酒ト看做シ製造者ヨリ直ニ酒類造石税ヲ徵收ス

第一項第四號及第六號ノ酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類庫出税ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ第三十七

條第三項(第四十二條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第一項第五號及第七號ノ酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒類造石税及酒類庫出税ヲ徴收ス

第六十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第五十四條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第五十五條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十六條ノ規定ニ違反シ檢定ヲ受ケザル機械、器具又ハ容器ヲ使用シタル者

四 第五十七條ノ規定ニ依ル檢査又ハ承認ヲ受ケザル者

五 第五十八條ノ規定ニ依ル收税官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第六十六條 第六十條第一項、第六十一條第一項、第六十二條第一項又ハ第六十八條第二項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第六十七條 酒類、酒母、醗若ハ麴ノ製造者又ハ酒類若ハ麴ノ販賣業者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣業者ヲ處罰ス

第六十八條 本法ヲ施行セザル地ニ於テ製造シタル酒類ハ其ノ地ニ於テ本法ト同等以上ノ税ヲ課スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シ酒類ヲ移入シタル者ハ其ノ移入酒類ニ付第二十七條ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石税及酒類庫出税ノ税額五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第六十九條 本法ヲ施行セザル地ニ於テ製造シタル酒母、醗又ハ麴ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シ酒母、醗又ハ麴ヲ移入シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ酒母、醗又ハ麴及其ノ容器ハ之ヲ沒收ス

附 則

第七十條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス

一 酒造税法

一 酒精及酒精含有飲料税法

一 麥酒税法

酒母、醱及麹取締法

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻税法

明治三十四年法律第十號

明治四十一年法律第二十四號

明治四十三年法律第六號

第七十二條 舊法ニ依リ酒類、酒精ヲ含有スル飲料、麥酒、酒母、醱又ハ麹ノ製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依リ酒類、酒母、醱又ニ麹ノ製造ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

舊法ニ依リ酒類、酒精ヲ含有スル飲料又ハ麥酒ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第七十三條 前條第一項ノ規定ニ依ル清酒ノ製造者ニハ第十五條第一項及第二項ノ規定ニ拘ラズ合成清酒製造ノ免許ヲ與フルコトヲ得

第七十四條 第二十二條第一項第三號ノ規定ハ昭和十五年十月一日ヨリ開始スル酒造年度以後ノ酒造年度ニ付之ヲ適用ス

第七十二條第一項ノ規定ニ依ル酒類製造者ニ對スル第二十二條第一項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ制限石數ハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケ製造シタル合成清酒ノ石數ハ之ヲ清酒ノ製造石數ト看做ス

第七十五條 舊法ニ依リ賦課シ又ハ賦課スベカリシ造石税、出港税及麥酒税ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

第三十二條及第四十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ拘ラズ本法施行前ニ査定ヲ受ケタル酒類又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニ付之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ舊法及臨時租税増徴法ニ依ル造石税ハ之ヲ本法ノ酒類造石税ト看做ス

第七十六條 舊法ニ依リ原料用トシテ検査ヲ受ケタル酒類、酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ニシテ本法施行ノ際現存スルモノハ其ノ檢定ノ内容ヲ以テ本法施行ノ際査定セラレ第三十九條第一項ノ規定ニ依リ其ノ酒類造石税ヲ免除セラレタルモノト看做ス

第七十七條 本法施行前ニ査定ヲ受ケタル麥酒ノ酒類庫出税ノ税率ハ第二十七條ノ規定ニ拘ラズ一石ニ付二十四圓三十錢トス

第七十八條 酒類ノ製造者又ハ販賣業者ガ本法施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ各種類ヲ通ジ合計十石以上ノ酒類(濁酒ヲ除ク)ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ本法施行ノ日ニ於テ其ノ酒類ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト

看做シ其ノ所持スル酒類ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ酒類庫出稅ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ麥酒ニ付テハ一石ニ付十四圓三十錢ノ割合ニ依リ算出シタル金額、其ノ他ノ酒類ニ付テハ第二十七條ニ規定スル酒類庫出稅ノ稅率ニ依リ算出シタル金額ト支那事變特別稅法第三十九條ニ規定スル物品稅ノ稅率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トス

前項ノ製造者又ハ販賣業者ハ其ノ所持スル酒類ノ種類毎ニ石數及貯藏ノ場所ヲ本法施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

第七十九條 本法施行ノ際製造場ニ現存スル酒類ニシテ戻入又ハ移入シタルモノニ付テハ第三十八條ノ規定ニ拘ラズ酒類庫出稅ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項後段ノ規定ヲ準用ス

第八十條 支那事變特別稅法第四十八條第一項又ハ第四十九條第一項第二號ノ規定ノ適用ヲ受ケテ移出シ又ハ引取リタル酒類ト看做シ支那事變特別稅法第五十條第一項第一號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除セラレタル酒類ハ之ヲ第四十二條第一項ノ規定ニ依リ酒類庫出稅ヲ免除セラレタル酒類ト看做ス

第八十一條 酒造稅法第十三條ノ規定ニ依リ提供シタル保證物及同法第十四條ノ規定ニ依リ爲シタル納稅保證ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本法ニ依ル納稅ノ擔保ト看做ス但シ舊法ニ依ル納稅保證タルノ效力ヲ妨ゲズ

第八十二條 本法施行前舊法及支那事變特別稅法中酒類ノ物品稅ニ關スル規定ニ基キ爲シタル申告、申請、檢定、檢査、承認、認可、命令又ハ監督上ノ處分ニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル申告、申請、檢定、檢査、承認、命令又ハ取締上ノ處分ト看做ス

第八十三條 東京府小笠原島及伊豆七島ニ於テ製造スル清酒及燒酎ノ酒稅ハ當分ノ内左ノ稅率ニ依ル

- 一 酒類造石稅 第二十七條ニ規定スル金額ノ三分ノ一
 - 二 酒類庫出稅 一石ニ付二十圓
- 前項ノ酒類ハ之ヲ内地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ移出スルコトヲ得ズ
前項ノ規定ニ違反シ酒類ヲ移出シタル者ハ其ノ移出酒類ニ付第二十七條ノ稅率ニ依リ算出シタル酒類造石稅及酒類庫出稅ノ合計稅額ト第一項ノ稅率ニ依リ算出シタル酒類造石稅及酒類庫出稅ノ合計稅額トノ差額ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ酒類及容器ハ之ヲ沒收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス
- 第六十六條**ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
- 第一項ニ規定スル地方ニ於テ製造シタル清酒及燒酎ニ付第七十八條又ハ第七十九條ノ規定ヲ適

用スル場合ニ於テハ一石ニ付十圓ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ其ノ税額トス

第八十四條 沖繩縣ニ於テ製造スル焼酎ノ酒類造石税ハ當分ノ内左ノ税率ニ依ル

第一種 アルコール分四十五度ヲ超エザルモノ 一石ニ付 三十三圓

アルコール分三十度ヲ超ユルトキハアルコール分三十度ヲ超ユル一度毎ニ二圓十錢ヲ加フ

第二種 アルコール分四十五度ヲ超ユルモノ 一石ニ付 百一圓ニアルコール分四十五度ヲ超ユル一度毎ニ二圓八十錢ヲ加ヘタル金額

本法施行前又ハ施行後沖繩縣ニ於テ製造シタル焼酎ヲ内地ノ他ノ地方、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ移出スルトキハ其ノ焼酎ニ付第二十七條ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石税ノ税額ト前項ノ税率ニ依リ算出シタル酒類造石税ノ税額トノ差額ニ相當スル出渡税ヲ課ス

樺太酒類出港税法第三條乃至第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第八十五條 神社ニ於テ古例ニ依リ明治十三年以前ヨリ引續キ酒類ヲ製造スルトキハ一酒造年度ノ製造石數一石以下ノ場合ニ限り當分ノ内酒税ヲ課セズ

第八十六條 アルコール專賣法第十七條中「酒造税法又ハ酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ製造免許ヲ」ヲ「酒税法ニ依リ酒類製造ノ免許ヲ」ニ「酒類又ハアルコール含有飲料ノ原料」ヲ「酒類製造ノ原料」ニ改ム

第八十七條 樺太酒類出港税法第一條第一項中「焼酎、酒精及酒精含有飲料」ヲ「酒税法ノ焼酎及雜酒」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

○酒税法施行規則 (昭和十五年三月三十一日勅令第四百十五號)

第一章 總則

第一條 酒税法第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ清酒ノ原料ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 麥、粟、玉蜀黍、高粱、稗若ハ澱粉、此等ノ麴若ハ米麴又ハ清酒粕

二 特殊ノ醸造方法ニ依リ製造スル地方的慣行アルモノニ付テハ前號ニ掲グル物品ノ外焼酎

前項第二號ノ焼酎ヲ使用セントスル者ハ其ノ使用量ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クベシ

第二條 酒税法第六條第二號ノ規定ニ依ル濁酒ノ原料ハ麥、粟、玉蜀黍、高粱若ハ稗、此等ノ麴若ハ米麴又ハ清酒粕トス

第三條 酒税法第九條第一項第二號ノ規定ニ依ル焼酎ノ原料ハ米、麥、粟、黍、稗、玉蜀黍、高

梁、馬鈴薯若ハ甘藷、此等ノ麵又ハ清酒粕、合成清酒粕若ハ味淋粕トス

第四條 酒税法第十條第二號ノ規定ニ依ル麥酒ノ原料ハ米、玉蜀黍、高粱、馬鈴薯、澱粉、砂糖、ホップ又ハ大蔵大臣ノ指定スル苦味料若ハ著色料トス

第五條 酒税法第十一條第二號及第三號ノ規定ニ依リ果實ニ加フル糖類ノ種類及割合ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 葡萄ニ付テハ其ノ汁液ニ糖分ヲ補充シ攝氏十五度ノ時ニ於テ容量百立方センチメートル中ニ含有スル糖類ノ重量ガ二十四グラムノ割合ニ達スル迄砂糖又ハ葡萄糖ヲ添加スルコトヲ得
- 二 葡萄以外ノ果實ニ付テハ其ノ汁液ニ糖分ヲ補充シ攝氏十五度ノ時ニ於テ容量百立方センチメートル中ニ含有スル糖類ノ重量ガ二十グラムノ割合ニ達スル迄砂糖又ハ葡萄糖ヲ添加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル砂糖及葡萄糖ノ添加量ハ汁液一石ニ付三十斤ヲ超ユルコトヲ得ズ

酒税法第十一條第三號ノ規定ニ依ル除酸劑ハ炭酸石灰トス

第二章 製造及販賣ノ免許

第六條 酒類製造ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 二 製造場ノ位置
 - 三 製造スベキ酒類ノ種類
 - 四 製造方法
 - 五 毎酒造年度ノ製造見込石數
 - 六 試験ノ爲ニ酒類ヲ製造セントスル者ニ在リテハ其ノ旨
- 第七條 酒税法第十五條第三項ノ規定ニ依リ製造ノ免許ヲ與フルトキハ稅務署長ハ製造ノ期間及石數ヲ指定スベシ
- 前項ノ期間又ハ石數ハ稅務署長之ヲ變更スルコトヲ得
- 第八條 酒母、醪又ハ麵ノ製造ノ免許ヲ受ケントスル者ハ其ノ製造スベキ種類毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ
- 一 申請者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 二 製造場ノ位置
 - 三 製造方法
 - 四 製造ノ目的

第九條 酒類販賣業ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ販賣場所轄稅務署ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所及氏名又ハ名稱

二 販賣場ノ位置

販賣場ヲ有セズシテ酒類ノ販賣業ヲ爲サントスル者ハ其ノ旨ヲ記載シ住所又ハ居所地ノ所轄稅務署ニ前項ノ申請書ヲ提出スベシ此ノ場合ニ於テハ前項第二號ニ掲グル事項ノ記載ヲ要セズ

第十條 酒場、料理店其ノ他酒類ヲ専ラ自己ノ營業場ニ於テ飲料ニ供スルコトヲ業トスル者ハ酒稅法第十七條ノ免許ヲ受クルコトヲ要セズ

第十一條 酒類、酒母、醪若ハ麹ノ製造又ハ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造場又ハ販賣場ヲ移轉セントスルトキハ製造場又ハ販賣場ノ所轄稅務署ヲ經由シ移轉先ノ所轄稅務署ニ許可申請書ヲ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ移轉ノ事由及酒類ノ製造者ニ在リテハ第六條第一號乃至第五號ニ掲グル事項、酒母醪又ハ麹ノ製造者ニ在リテハ第八條各號ニ掲グル事項、酒類ノ販賣業者ニ在リテハ第九條第一項各號ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

第十二條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄

稅務署ニ提出スベシ

酒母、醪若ハ麹ノ製造又ハ酒類ノ販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造又ハ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十三條 酒類、酒母、醪若ハ麹ノ製造業又ハ酒類販賣業ヲ相續シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第十四條 稅務署長ハ酒稅法第二十二條第一項（第二十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定

ニ依リ酒類、酒母、醪又ハ麹ノ製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ製造者ノ申請ニ依リ期間ヲ指定シテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ酒稅法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ酒類販賣業ノ免許ヲ取消シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第三章 酒稅ノ賦課徵收

第一節 酒類造石稅

第十五條 酒稅法第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ控除スル滓引減量又ハ貯藏減量ハ清酒ニ付テハ製造石數ノ百分ノ七、味淋ニ付テハ製造石數ノ百分ノ三、燒酎ニ付テハ製造石數ノ百分ノ二トス

犯則ニ係ル清酒、味淋又ハ燒酎ニシテ酒稅法第二十九條第二項ノ規定ニ依リ査定シタルモノニ付テハ前項ノ滓引減量又ハ貯藏減量ハ之ヲ控除セズ

第十六條 酒類製造者清酒又ハ味淋ヲ清酒粕又ハ味淋粕ニテ粕漉セントスルトキハ粕漉スベキ酒類ノ石數、粕漉ノ方法及時期ニ付所轄稅務署ノ承認ヲ受クベシ

第十七條 酒稅法第二十九條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ル酒類ノ製造石數ノ査定又ハ檢定ハ製成ノ時容器ノ容量ニ依リ一容器毎ニ之ヲ行フ

酒稅法第二十九條第一項ノ規定ニ依ル酒類ノアルコール分ノ査定ハ製成ノ時一容器毎ニ實測シテ之ヲ行フ

第十八條 酒類ガ腐敗其ノ他ノ事由ニ因リ飲用ニ供シ難キ場合ニ於テ酒類製造者酒稅法第三十二條第一項第二號ノ規定ノ適用ヲ受クル爲之ニ酒類トシテ飲用スルコト能ハザル處置ヲ施シ又ハ之ヲ酒類製造ノ原料ニ供セントスルトキハ其ノ方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クベシ

第十九條 酒類製造者酒稅法第三十二條第一項各號ノ規定ニ依リ酒類造石稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由、當該酒類ノ種類石數及アルコール分並ニ査定ノ日及場所ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

酒類製造者ガ故意ニ酒類ヲ亡失セシメタル場合ニ於テハ酒稅法第三十二條第一項第一號ノ規定

ニ依ル免除ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第二十條 酒稅法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル交付金ハ酒類ガ移出先ニ到達前亡失シタルトキハ酒類ヲ移出シタル者ニ、酒類ガ移出先ニ於テ藏置中亡失シタルトキハ移出先ノ營業者ニ之ヲ交付ス

酒稅法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由、當該酒類ノ種類石數及アルコール分、査定ノ日及場所並ニ移出及移入ノ日及場所ヲ記載シタル申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所ガ前項ノ稅務署ノ管轄ニ屬セザルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ交付ヲ受ケタル證明書ヲ、當該酒類ノ製造場ガ前項ノ稅務署ノ管轄ニ屬セザルトキハ其ノ酒類ニ付酒類造石稅ヲ納付シタルコトヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

第二節 酒類庫出稅

第二十一條 酒稅法第三十四條第二號本文及第三十五條第一項第一號本文ノ規定ハ酒類製造ノ免許ノ取消ヲ申請シタル者ガ所轄稅務署ニ申請シテ承認ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十二條 酒稅法第三十五條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ之ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スベシ